

『中学社会歴史的分野』

学習指導計画作成資料

■歴史的分野 目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

	(1)	(2)	(3)
目標	我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にここで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚、国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深め、国際協調の精神を養う。

(中学校学習指導要領 P. 48)

■歴史的分野 評価の観点及びその趣旨

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。	歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。	歴史に関わる諸事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野にここで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

(平成 31 年 3 月 29 日付け 30 文科初第 1845 号「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」の「〔別紙 4〕各教科等・各学年等の評価の観点等及びその趣旨」P. 4 引用)

※歴史的分野の学習指導要領の目標を踏まえ、観点別学習状況の評価の対象とするものについて整理した表です。

■年間指導計画

学習指導要領の内容：A～C

累計 時数	学習内容	学習のねらい	評価規準
1	探してみよう！ 私たちと歴史とのつながり (教科書P.Ⅱ-Ⅲ) 歴史を学ぶにあたって (教科書P.Ⅳ)	○現代の私たちの生活の中で、歴史を学ぶことができる機会があることを確認する。 ○小学校の学習をふまえながら、中学校で歴史を学んでいく目的や意義を理解する。	主体的に学習に取り組む態度 身近なところから歴史にふれようとするとともに、中学校の歴史学習に関心をもって学習に取り組もうとしている。 知識・技能 中学校と小学校の歴史学習のちがいや、歴史を学んでいく目的や意義について理解している。

第1編 私たちと歴史

学習指導要領の内容：A

第1編の目標			
○年代の表し方や時代区分の意味や意義についての基本的な内容を理解するとともに、資料から歴史に関する情報を読み取ったり、年表などにまとめたりする技能を身につける。 ○時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、小学校での学習をふまえて歴史上の人物や文化財、出来事などから適切なものを取り上げ、時代区分との関わりなどについて考察し、表現する力を養う。 ○私たちと歴史について、歴史的な見方・考え方に沿った視点を生かしてよりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究する態度を養う。			
【単元を貫く問い】 年代の表し方や時代区分を学ぶ意味や意義、歴史的な見方・考え方は何だろうか。			
★ 評 定 に 用 い る 評 価 規 準	知識・技能 ・年代の表し方や時代区分の意味や意義についての基本的な内容を理解している。 ・資料から歴史に関わる情報を読み取ったり、年表などにまとめたりする技能を身につけている。		
	思考・判断・表現 ・時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、小学校での学習をふまえて歴史上の人物や文化財、出来事などから適切なものを取り上げ、時代区分との関わりなどについて考察し、表現している。		
	主体的に学習に取り組む態度 ・私たちと歴史について、歴史的な見方・考え方に沿った視点を生かしてよりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。		

累計 時数	学習内容	学習のねらい	評価規準
2 3 4	小学校で学んだ主な人物と文化遺産(教科書P.6-7) 歴史を大きく変えた人物はだれだろうか？ (教科書P.8-10)	○小学校で学習した歴史上の人物について、活躍した分野を政治、文化のいずれかに分類しながら、学習内容を思い出す。 ○歴史を大きく変えた人物を選び、その人物を選んだ理由を考え、表現する。	知識・技能 小学校で学んだ主な人物を、政治分野で活躍した人物と文化分野で活躍した人物に区別して読み取っている。 思考・判断・表現 「歴史を大きく変えた人物」を選んだ理由を説明し、その人物の歴史との関わりを考え、表現している。
5	年代・時代区分のあらわし方(教科書P.11)	○西暦の成り立ち、紀元前と紀元後のちがいを、世紀の意味を	知識・技能 西暦はイエスが生まれた年を基準にし

		<p>理解する。</p> <p>○日本の時代区分が、何を基になされているのかを理解し、その意味や意義を考え、表現する。</p>	<p>ていること、世紀は100年ごとをひとまとめにしたものであることを理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>時代区分の種類が、社会のしくみの特徴による分け方や、主に政治の中心地の名称による分け方など、複数あることを考え、表現している。</p>
6	「歴史的な見方・考え方」とは？（教科書P.12-13）	<p>○歴史を考察し、理解する手立てとして、「歴史的な見方・考え方」を身につける。</p> <p>○「歴史的な見方・考え方」を働かせて、課題に対して主体的に追究しようとする態度を養う。</p>	<p>知識・技能</p> <p>時系列・推移・比較・つながりの四つの視点や方法を理解し、「歴史的な見方・考え方」を身につけている。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>これから中学校の歴史学習に取り組むにあたり、「歴史的な見方・考え方」を働かせながら主体的に追究しようとしている。</p>

第2編 古代までの日本と世界

学習指導要領の内容：B（1）

第2編の目標	
<p>○古代までの日本の大きな流れを、世界の歴史を背景に、時代の特色をふまえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身につける。</p> <p>○古代までの日本に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、思考したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>○古代までの日本に関わる諸事象について、そこでみられる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。</p> <p>【単元を貫く問い】（教科書P.15「めあて」）</p> <p>類人猿と猿人のようすを比べて、地球上に人類が誕生したのはいつのことか、その後人々のくらしはどのように変わっていったのか、この単元ではそのなぞを解いていきましょう。</p> <p>そして、「古代まで」とはどのような時代か、古代の日本は国のしくみをどのように整えていったのかなど、自分の言葉で説明できることをめざしましょう。</p>	
<p>（★ 第2編の評価規 準 に 用 い る 評 価）</p>	<p>知識・技能</p> <p>・古代までの日本の大きな流れを、世界の歴史を背景に、時代の特色をふまえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身につけている。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>・古代文明や宗教が起こった場所や環境、農耕の広まりや東アジアとの交流と天皇や貴族の政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、古代までの社会の変化のようすを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>・古代までの日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>・資料から人類が誕生した時代の前後を比較することを通して、古代までの日本について見通しをもって学習に取り組もうとしている。</p> <p>・古代までの日本の学習をふり返りながら自身の学びを確認、調整しようとするとともに、古代までの時代の特色は何かを主体的に追究しようとしている。</p>

第1節 人類の始まりと文明

第1節の目標	
<p>○人類の誕生や世界の古代文明や宗教のおこりを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、世界の各地で文明が築かれたことを理解する。</p> <p>○人類の進化の移り変わりや古代文明や宗教が起こった場所や環境などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、世界の各地で文明が築かれたことについて多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。</p> <p>○資料から人類が誕生した時代の前後を比較することを通して、古代までの日本について見通しをもって学習に取り組む態度を養う。</p> <p>【単元を貫く問い】 世界の古代文明にはどのような特徴があるのだろうか。</p>	
(★) 第1節の評価規準に用いる評価	<p>知識・技能</p> <p>・人類の誕生や世界の古代文明や宗教のおこりを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、世界の各地で文明が築かれたことを理解している。</p>
	<p>思考・判断・表現</p> <p>・人類の進化の移り変わりや古代文明や宗教が起こった場所や環境などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、世界の各地で文明が築かれたことについて多面的・多角的に考察し、表現している。</p>
	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>・資料から人類が誕生した時代の前後を比較することを通して、古代までの日本について見通しをもって学習に取り組もうとしている。</p>

累計時数	学習内容	学習のねらい	評価規準
7	<p>【導入】(教科書P.14-17)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「古代までの日本と世界」の特色を探っていこう ・地図で見る世界の動き—人類の広がり 	<p>○類人猿と猿人の比較を通して、当時のようすをイメージし、人類の祖先のくらしについて主体的に考える態度を養う。</p> <p>○資料の読み取りなどを通して、人類の誕生とその広まり、古代までの日本と世界の動きについて理解する。</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>古代までの日本と世界について、見通しをもって学習に取り組もうとし、課題を主体的に追究しようとしている。</p> <p>知識・技能</p> <p>地図や年表から人類が誕生した時代や地域、その後の広まり、古代までの日本と世界の動きを理解している。</p>
8	<p>1 人類の出現(教科書P.18-19)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人類の誕生と進化 ・農耕と牧畜の始まり 	<p>○人類の進化の過程をつかみ、各段階の人類の特徴を理解する。</p> <p>○気候の変動と関連づけて、狩猟・採集から農耕・牧畜へと生活が変化するようすを考え、表現する。</p>	<p>知識・技能</p> <p>人類が猿人、原人、旧人、新人へと進化してきた過程をつかみ、それぞれの段階の特徴を理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>人類のくらしについて、新石器時代の気候の温暖化と関連づけて、採集・狩猟生活から農耕・牧畜生活へ変化したことを考え、表現している。</p>
9	<p>2 古代文明の誕生(教科書P.20-21)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文明の始まり ・メソポタミア文明 ・エジプト文明 ・インダス文明 	<p>○古代文明がおこった場所の共通点を理解する。</p> <p>○古代文明のおこりを、文字・建築物などに注目して考え、表現する。</p>	<p>知識・技能</p> <p>メソポタミア文明、エジプト文明、インダス文明などがいずれも農耕・牧畜が発展しやすい大河の流域でおこったことを理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>それぞれの古代文明に文字の使用や都</p>

			市の建設がみられたことなど、共通する特徴を考え、表現している。
10	3 中国の文明と東アジア世界 (教科書 P. 22-23) ・中国の文明 ・統一国家の誕生 ・朝鮮半島の国々	○中国文明のおこりを考え、殷から漢に至る各時代の特徴を理解する。 ○万里の長城が築かれた背景や漢の時代に東西文化の交流によっておこった変化を考え、表現する。	知識・技能 各時代の特徴について、国家が領土や支配地を治めるために整えたしくみの変化をとらえて理解している。 思考・判断・表現 万里の長城が国を守るために築かれたことや、シルクロードが開かれたことで各地の文物が運ばれ、その文化が周辺の国々へ影響をあたえたことを考え、表現している。
11	4 ギリシャ・ローマの文明 (教科書 P. 24-25) ・都市国家の成立 ・アテネの民主政治 ・ヘレニズム時代 ・ローマ帝国の繁栄	○古代ギリシャ社会の発展の背景にあるものを考え、表現する。 ○イタリア半島の都市国家であったローマが、共和政から帝政へと変わり、地中海を取り巻く大帝国に発展していったことを理解する。	思考・判断・表現 古代ギリシャの都市国家であるアテネで民主政治が行われ、社会が安定し、演劇や哲学などの文化が発展したことを考え、表現している。 知識・技能 共和政をとっていたローマが、紀元前1世紀末には帝政に変わり、地中海を取り巻く大帝国となったことを理解している。
12	5 文明と宗教 (教科書 P. 26-27) ・宗教のおこり ・仏教 ・キリスト教 ・イスラム教	○仏教・キリスト教・イスラム教がおこった地域が、それぞれインド、西アジアなどの文明がおこった地域と重なることを考え、表現する。 ○現代の世界に大きな影響をあたえている宗教が、どのようにしておこったのかについて理解する。	思考・判断・表現 古代文明と主な宗教がおこった場所を示した地図から情報を取り出し、文明がおこった地域で宗教もおこっている共通点を考え、表現している。 知識・技能 三大宗教について、おこった地域や広まっていく過程に着目して、宗祖・教え・年代などを理解している。

第2節 日本列島の人々と国家の形成

第2節の目標	
<p>○日本列島での農耕の広まりや東アジアとの関わりを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、東アジアの文明の影響を受けながら日本で国家が形成され、国家のしくみが整えられていったことを理解する。</p> <p>○農耕の始まりや生産技術の発展の影響や東アジアとの交流による政治の変化などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、日本の国家の形成について多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。</p> <p>【単元を貫く問い】 日本列島において国家はどのように形成されていったのだろうか。</p>	
<p>(★) 第2節の評価規準 に用いる評価</p>	<p>知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本列島における農耕の広まりや当時の人々の信仰、ヤマト王権による統一のようすと東アジアとの関わりを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、東アジアの文明の影響を受けながら日本で国家が形成されたことを理解している。 仏教の伝来、律令国家の確立に至るまでの過程などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら国家のしくみが整えられていったことを理解している。
	<p>思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> 農耕の始まりや生産技術の発展の影響や東アジアとの交流による政治の変化などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、日本の国家の形成について多面的・多角的に考察し、表現している。

累計 時数	学習内容	学習のねらい	評価規準
13	<p>1 日本人のルーツと縄文時代（教科書P.28-29）</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本列島の形成 縄文時代の始まり 縄文時代の人々の暮らし 	<p>○氷期に新人が日本列島に現れたことを理解する。</p> <p>○縄文時代の人々は、大きな環境の変化に適応し、旧石器時代よりも豊かな生活を営んだことを考え、表現する。</p>	<p>知識・技能</p> <p>資料から、旧石器時代や縄文時代のくらしの特色を理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>人々が、環境の変化に適応できたことに着目し、生活が豊かになったことを、過去の生活と比較して考え、表現している。</p>
14	<p>2 稲作の広まりと弥生時代（教科書P.30-31）</p> <ul style="list-style-type: none"> 稲作の広まり ムラからクニへ 邪馬台国 	<p>○渡来人がもたらした稲作などの生産技術の広がりによって、本格的な農耕社会が訪れたことを考え、表現する。</p> <p>○遺跡や中国の歴史書などからムラやクニのようすを理解する。</p>	<p>思考・判断・表現</p> <p>稲作の普及や生産技術の発展が人々のくらしや社会に変化をもたらしたことを考え、表現している。</p> <p>知識・技能</p> <p>ムラ同士の争いからクニが誕生し、クニは中国王朝との通交を行って、皇帝の権威を利用したことを理解している。</p>
15	<p>3 ヤマト王権と渡来人（教科書P.32-33）</p> <ul style="list-style-type: none"> 巨大な古墳とヤマト王権 大王・豪族と人々の生活 中国や朝鮮との交流と渡来人 	<p>○古墳の分布や大陸との関係を通してヤマト王権による日本の統一について理解する。</p> <p>○渡来人の知識や技術がヤマト王権に与えた影響を考え、表現する。</p>	<p>知識・技能</p> <p>古墳の築造や広がり、中国や朝鮮との積極的な関わりから、ヤマト王権の日本の統一を理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>ヤマト王権の日本の統一を、渡来人の知識や技術が与えた影響に着目して考え、表現している。</p>

16	<p>【チャレンジ歴史】 考古学に挑戦！ よろいを着た人物のなぞを解こう (教科書 P. 34-36)</p>	<p>○金井東裏遺跡に関する地理的な情報や他の出土物等の資料を基に、発見されたよろいを着た人物について考え、表現する。</p>	<p>知識・技能 各資料から適切な情報を読み取り、総合することで当時のようすについて理解している。 思考・判断・表現 よろいを着た人物はどのような人だったのか、資料を基に考え、表現している。</p>
-	<p>【歴史を掘り下げる】 朝貢・冊封とは何か (教科書 P. 37)</p>	<p>○朝貢・冊封にみられる当時の国際秩序をとらえ、日本の国家形成についての理解をさらに深める。</p>	<p>知識・技能 古代の日本が中国と朝貢・冊封関係をとっていたことを理解している。 思考・判断・表現 アジアにおける国際的な秩序について、当時の中国の地位や国どうしの結びつきから考え、表現している。</p>
17	<p>4 東アジアの統一国家 (教科書 P. 38-39) ・隋・唐による中国統一 ・国際都市長安 ・新羅の朝鮮半島統一</p>	<p>○分裂していた中国に登場した統一国家とその制度について理解する。 ○中国の統一国家の成立が、東アジア周辺国にあたえた影響を考え、表現する。</p>	<p>知識・技能 統一国家をつくり上げた隋や唐の国のしくみについて、日本とのちがいをふまえて理解している。 思考・判断・表現 当時の国際情勢から、日本が隋や唐から受けた影響について考え、表現している。</p>
18	<p>5 聖徳太子と飛鳥文化 (教科書 P. 40-41) ・蘇我氏と聖徳太子 ・飛鳥文化</p>	<p>○蘇我氏や聖徳太子は、東アジアの文物や制度を取り入れながら国家のしくみを整えていったことを理解する。 ○蘇我氏や聖徳太子が定めた制度や進めた事業の特徴をとらえて、どのような国づくりをめざしたのかについて考え、表現する。</p>	<p>知識・技能 当時の政治や飛鳥文化についてまとめ、東アジアの文物や制度を取り入れながら国家のしくみが整えられたことを理解している。 思考・判断・表現 蘇我氏や聖徳太子が定めた制度や進めた事業の共通性に着目して、そのような政治を行ったねらいについて考え、表現している。</p>
19	<p>6 律令国家の成立 (教科書 P. 42-43) ・大化の改新 ・天智天皇 ・律令国家の成立</p>	<p>○東アジアの情勢から、大化の改新が必要であったことを考え、表現する。 ○7～8世紀の日本において律令国家のしくみが整えられたことを理解する。</p>	<p>思考・判断・表現 東アジアの情勢の変化に着目して、唐に対応できる国づくりをめざして大化の改新がおこったことを考え、表現している。 知識・技能 大化の改新から天武天皇、持統天皇へと引き継がれて律令国家が確立されたことを理解している。</p>

第3節 古代国家の展開

第3節の目標	
<p>○撰関政治や仮名文字の成立などを基に，諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ，天皇や貴族による政治が展開したことや国際的な要素をもった文化が栄え，それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解する。</p> <p>○律令国家の政治の展開やその目的，東アジアの状況の変化などに着目して，事象を相互に関連づけるなどして，天皇や貴族による政治や文化の展開について多面的・多角的に考察し，表現する力を養う。</p> <p>○古代までの日本の学習をふり返りながら自身の学びを確認，調整しようとするとともに，古代までの時代の特色は何かを主体的に追究する態度を養う。</p> <p>【単元を貫く問い】 律令国家のあり方はどのように変化していったのだろうか。</p>	
(★評定に用いる評価)	<p>知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・撰関政治などを基に，諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ，天皇や貴族による政治が展開したことを理解している。 ・仮名文字の成立などを基に，諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ，国際的な要素をもった文化が栄え，それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解している。 <p>思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・律令国家の政治の展開やその目的，東アジアの状況の変化などに着目して，事象を相互に関連づけるなどして，天皇や貴族による政治や文化の展開について多面的・多角的に考察し，表現している。 ・古代までの日本を大観して，時代の特色を多面的・多角的に考察し，表現している。 <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古代までの日本の学習をふり返りながら自身の学びを確認，調整しようとするとともに，古代までの時代の特色は何かを主体的に追究しようとしている。

累計時数	学習内容	学習のねらい	評価規準
20	<p>1 奈良の都と人々のくらし (教科書 P. 44-47)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奈良の都 ・律令国家のもとでのくらし 	<p>○天皇を頂点として，皇族・貴族や役人たちが全国を支配する中央集権国家のしくみを理解する。</p> <p>○租調庸や兵役・労役が大きな負担となり，逃亡したり僧になったりするなど，税を逃れる人が現れたことを考え，表現する。</p>	<p>知識・技能</p> <p>大化の改新以前のようすや中国の律令制度との関係に着目して，天皇を頂点として，皇族・貴族や役人たちが全国を支配する中央集権国家のしくみを理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>租調庸を基軸とする税制度が，民衆にとって大きな負担となり逃亡をまねいたことを考え，表現している。</p>
21	<p>2 天平文化と聖武天皇 (教科書 P. 48-50)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天平文化 ・万葉集と歴史書 	<p>○天平文化が仏教の広まりや遣唐使がもたらす唐の文化の影響を受けて成立したことを考え，表現する。</p> <p>○律令国家のしくみが整っていくことを背景に，『古事記』や『日本書紀』がまとめられたことを理解する。</p>	<p>思考・判断・表現</p> <p>天平文化が，仏教を中心としたもので，西アジアや南アジアとつながる唐の影響を受けた国際色豊かな文化であることを考え，表現している。</p> <p>知識・技能</p> <p>記紀が律令国家の成立とともに，天皇の由来などを説明するためにまとめられたことを理解している。</p>
-	<p>【歴史を掘り下げる】 日本の神話 (教科書 P. 51)</p>	<p>○奈良時代にまとめられた『古事記』『日本書紀』の内容について理解する。</p>	<p>知識・技能</p> <p>『古事記』『日本書紀』が天皇や貴族の祖先とされる神々の行いと，天皇を中心</p>

		○神話を通して現代の私たちが何を知ることができるかを考え、表現する。	とする国家の成り立ちをえがいたことを理解している。 思考・判断・表現 神話を、その時代の人々の信仰やもの見方を知る手がかりになるものとしてとらえて考え、表現している。
22	3 平安京と桓武天皇 (教科書 P. 52-53) ・平安の都 ・新しい仏教	○桓武天皇が、平安京に都を移した理由について考え、表現する。 ○平安時代の仏教の特徴を理解する。	思考・判断・表現 桓武天皇が都を平城京から平安京に移した理由について、朝廷の貴族や僧侶の動きと天皇がめざす政治に着目して考え、表現している。 知識・技能 平安時代の仏教が都からはなれ、厳しい修行や学問を行うものであったこと、また浄土信仰が盛んになったことを理解している。
23	4 摂関政治と国風文化 (教科書 P. 54-57) ・摂関政治と地方の行政 ・東アジアの変化と国風文化 ・かな文字と文学	○藤原氏の摂関政治を通して、律令政治が変化したことを理解する。 ○東アジアの変化を背景に、貴族が生み出した国風文化の特色を考え、表現する。	知識・技能 摂関政治が行われた時代に、天皇を頂点とした中央集権国家のしくみが変わっていったことを理解している。 思考・判断・表現 東アジアの変化を背景に、貴族のあいだで日本の風土やくらしにあった文化が生まれ、発展したことを考え、表現している。
-	【歴史を掘り下げる】 文化財を守り伝える仕事 (教科書 P. 58-59)	○文化財の保存・修復の取り組みを学び、保存修理の方法や特色について理解する。	知識・技能 文化財の保存・修復を手がける九州国立博物館と奈良県文化財保存事務所の取り組みを学び、保存修理の方法や文化財を保存修理することの意義について理解している。
-	【でかけよう！地域調べ】 平城宮跡を歩く (教科書 P. 60-61)	○身近な地域にある史跡見学の方法や調査方法を身につけ、調査内容をまとめる。 ○調査した内容を基に、身近な地域の特徴を考え、表現する。	知識・技能 史跡見学で収集した資料を活用し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。 思考・判断・表現 史跡見学で調査した内容を基に身近な地域の歴史的な特徴を考え、表現している。
24	【学習の整理と活用—とらえよう！「古代までの日本と世界」の特色】 (教科書 P. 62-63) 「文字の変化」に着目して、古代までの特色にせまろう	○各時代に使用された文字の内容や目的に着目し、古代までの特色について多面的・多角的に考え、表現する。 ○「文字の変化」に着目し、それぞれの文字の特徴を考察する活動を通して、これまでの学習をふり返りながら、古代までの特色について主体的に追究しようとする態度を養う。	思考・判断・表現 古代までの日本が、朝鮮半島や中国との関わりの中で発展してきたことをふまえて、文字の変化に着目し、古代までの特色を多面的・多角的に考え、表現している。 主体的に学習に取り組む態度 これまでの学習活動をふまえ、古代までの特色を主体的に追究し、様々な立場や観点から見いだそうとしている。

第3編の目標	
<p>○中世の日本の大きな流れを、世界の歴史を背景に、時代の特色をふまえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身につける。</p> <p>○中世の日本に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、思考したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>○中世の日本に関わる諸事象について、そこでみられる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。</p> <p>【単元を貫く問い】（教科書P.65「めあて」） 平安時代の上皇の御所と鎌倉時代の武士の館のようすを比べて、どこがちがうか、どうしてちがうのか、この単元ではそのなぞを解いていきましょう。</p> <p>そして、「中世」とはどのような時代か、中世の日本はどのような新しいしくみをつくりあげようとしたのかなど、自分の言葉で説明できることをめざしましょう。</p>	
<p>（★ 評定に 用いる 評価）</p> <p style="writing-mode: vertical-rl;">第3編の 評価規 準</p>	<p>知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中世の日本の大きな流れを、世界の歴史を背景に、時代の特色をふまえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身につけている。 <p>思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、中世の社会の変化のようすを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・中世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。 <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料から時代の移り変わりを読み取る活動を通して、中世の日本と世界について見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・中世の日本の学習をふり返りながら自身の学びを確認、調整しようとするとともに、中世の時代の特色は何かを主体的に追究しようとしている。

第1節 古代から中世へ

第1節の目標	
<p>○武士の登場や院政、平氏の政治などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、武士が次第に力をつけていったことを理解する。</p> <p>○武士と皇族・貴族との関係や貴族の政治と武士の政治のちがいなどに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、武士が次第に力をつけていったことを多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。</p> <p>○資料から時代の移り変わりを読み取る活動を通して、中世の日本と世界について見通しをもって学習に取り組む態度を養う。</p> <p>【単元を貫く問い】 武士はどのようにして力をつけていったのだろうか。</p>	
<p>（★ 評定に 用いる 評価）</p> <p style="writing-mode: vertical-rl;">第1節の 評価規 準</p>	<p>知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・武士の登場や院政、平氏の政治などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、武士が次第に力をつけていったことを理解している。 <p>思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・武士と皇族・貴族との関係や貴族の政治と武士の政治のちがいなどに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、武士が次第に力をつけていったことを多面的・多角的に考察し、表現している。 <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料から時代の移り変わりを読み取る活動を通して、中世の日本と世界について見通しをもって学習に取り組もうとしている。

累計 時数	学習内容	学習のねらい	評価規準
25	【導入】 （教科書 P. 64-67） ・「中世の日本と世界」の特色を探っていこう ・地図で見る世界の動き—10～12世紀の世界と日本	○くらしの変化を示す資料の比較を通して、当時の日本のようすをイメージし、武家政権の誕生とその影響について主体的に考える態度を養う。 ○資料の読み取りなどを通して、世界の各地でそれぞれの勢力が成長したことや、中世の日本と世界の動きについて理解する。	<u>主体的に学習に取り組む態度</u> 中世の日本と世界について、見通しをもって学習に取り組もうとし、課題を主体的に追究しようとしている。 <u>知識・技能</u> 地図と年表から10～12世紀の世界各地でおこった国や王朝、中世の日本と世界の動きについて理解している。
26	1 武士の登場 （教科書 P. 68-69） ・武士のおこり ・東北地方の発展	○地方や都での武士のおこりやその成長などについてまとめ、武士が大きな勢力をもつようになったことを理解する。 ○律令制のおとろえの中での武士の地位の高まりをとらえ、武士がどのように力をつけていったのかについて考え、表現する。	<u>知識・技能</u> 武士のおこりやその成長についてまとめ、武士が貴族に代わって大きな役割を担い、力をつけていったことを理解している。 <u>思考・判断・表現</u> 律令制の解体に伴い、武士が都や地方に現れ、朝廷に代わって反乱をしずめるなどして、力をつけていったことを考え、表現している。
27	2 院政と平氏政権 （教科書 P. 70-71） ・院政 ・平氏の政治	○摂関政治との比較などを通して院政の特徴を理解するとともに、社会状況の変化により武士が政治に関与し始めたことを理解する。 ○武士である平氏が貴族的な側面をもって台頭したことをふまえて、どのような政治を行おうとしたかについて考え、表現する。	<u>知識・技能</u> 父方の上皇が実権をにぎるという院政の特徴や、荘園・公領の管理を行うようになった武士の政治的関与が進んだことを理解している。 <u>思考・判断・表現</u> 平氏の政治が、日宋貿易を進める一方で、娘を天皇のきさきにするなど貴族的な側面をもつものであったことを考え、表現している。

第2節 鎌倉幕府の成立

第2節の目標	
<p>○鎌倉幕府の成立、元寇（モンゴル帝国の襲来）などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、武士が台頭して主従の結びつきや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まったこと、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解する。</p> <p>○幕府と御家人の関係や農業や商工業の発達、国内と外国をむかえた戦いのちがいに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、武士が台頭して主従の結びつきや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まったこと、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことについて多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。</p> <p>【単元を貫く問い】 鎌倉幕府の成立やユーラシア大陸からの影響は社会をどのように変えたのだろうか。</p>	
<p>（★ 第2節の評価規準 に用いる評価）</p>	<p>知識・技能</p> <p>・鎌倉幕府の成立、元寇（モンゴル帝国の襲来）などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、武士が台頭して主従の結びつきや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まったこと、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解している。</p>
	<p>思考・判断・表現</p> <p>・幕府と御家人の関係や農業や商工業の発達、国内と外国をむかえた戦いのちがいに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、武士が台頭して主従の結びつきや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まったこと、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことについて多面的・多角的に考察し、表現している。</p>

累計 時数	学習内容	学習のねらい	評価規準
28	<p>1 鎌倉幕府の政治 （教科書P.72-73）</p> <p>・源頼朝と鎌倉幕府 ・執権政治</p>	<p>○鎌倉幕府の政治のしくみをとらえ、武士による政治の基盤がつくられたことを理解する。</p> <p>○鎌倉幕府における主従関係などの特徴をふまえ、政治にどのようなしくみや特徴があるのかについて考え、表現する。</p>	<p>知識・技能</p> <p>将軍と御家人との主従関係の確立や守護・地頭の設置による全国支配など、武士による政治の基盤がつくられたことを理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>鎌倉幕府の政治が、将軍と御家人の御恩と奉公の関係を基に成立していたことを考え、表現している。</p>
29	<p>【チャレンジ歴史】 承久の乱を通して、古代から中世への変化を考えよう （教科書P.74-75）</p>	<p>○資料の読み取りや比較などを通して、承久の乱をきっかけに武家の全国支配が確立していったことを理解する。</p> <p>○幕府と御家人の関係に着目し、古代の政治とのちがいをふまえながら中世の社会構造の特徴について考え、表現する。</p>	<p>知識・技能</p> <p>承久の乱の後、鎌倉幕府の支配領域が東国から全国に広がっていったことを理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>天皇や貴族が政治を進めてきた古代と、武士の全国的な支配が確立した中世のちがいから、中世の社会構造の特徴について考え、表現している。</p>
30	<p>2 鎌倉時代の人々の暮らし（教科書P.76-77）</p> <p>・京都と鎌倉 ・武士と農民 ・農業と商業の発達</p>	<p>○鎌倉時代の農民が、武士や荘園領主とどのような関係にあったのかを理解する。</p> <p>○社会や人々の暮らしがどのように変化したかを、農業技術の進歩や商業の発達、貨幣経済の進展に着目して考え、表</p>	<p>知識・技能</p> <p>鎌倉時代に武士が力を強める中で、農民は武士や荘園領主から二重支配を受けたことを理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>二毛作の広まりや定期市の開催、貨幣経済の進展などにより、社会や人々のく</p>

		現する。	らしが向上したことを考え、表現している。
31	3 鎌倉時代の文化と仏教 (教科書 P. 78-81) ・鎌倉時代の文化 ・鎌倉仏教	○古代の文化との比較を通して、武家や公家のみならず民衆にも広まった鎌倉時代の文化の特徴について考え、表現する。 ○当時の社会情勢の変化を背景として、新しい仏教が武家や民衆に広がったことを理解する。	思考・判断・表現 古代の文化との比較から、鎌倉時代の文化が、武士や民衆にもわかりやすく、また武士の気風にあった文化であることを考え、表現している。 知識・技能 戦乱やききんなどの社会情勢から、人々のなやみにこたえる仏教の新しい動きがみられ、武家や民衆に広がったことを理解している。
32	4 元の襲来と鎌倉幕府 (教科書 P. 82-85) ・強大なモンゴル帝国 ・元の襲来 ・鎌倉幕府のおとろえ	○資料の読み取りなどを通して、モンゴル帝国が勢力を拡大したことや元の襲来への鎌倉幕府の対応について理解する。 ○国内の戦いとのちがいによる御家人の窮乏などの課題をふまえて、鎌倉幕府がおとろえた理由について考え、表現する。	知識・技能 東アジアの情勢の変化の中で元軍が日本に襲来したことや、それに対する幕府の対応を理解している。 思考・判断・表現 国内の戦いとのちがいがもたらした元寇後の御家人の窮乏と、幕府の対応による主従関係のゆらぎをふまえて、鎌倉幕府がおとろえた理由について考え、表現している。
-	【歴史を掘り下げる】 古代から中世への土地制度の移り変わり (教科書 P. 86-87)	○初期荘園と寄進地系荘園とのちがいを理解する。 ○古代の班田制と比較しながら、中世の土地制度の特徴について考え、表現する。	知識・技能 古代から中世への土地制度の移り変わりをとらえ、初期荘園と寄進地系荘園とのちがいを理解している。 思考・判断・表現 寄進地系荘園が増加した理由を整理し、中世の土地制度の特徴について考え、表現している。

第3節 室町幕府と下剋上

第3節の目標	
<p>○南北朝の動乱と室町幕府, 日明貿易, 畿内を中心とした都市や農村における自治的なしくみの成立などを基に, 諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ, 武家政治の展開とともに, 東アジア世界との密接な関わりがみられたことや民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解する。</p> <p>○東アジアにおける交流, 応仁の乱の影響などに着目して, 事象を相互に関連づけるなどして, 武家政治の展開とともに, 東アジア世界との密接な関わりがみられたことについて多面的・多角的に考察し, 表現する力を養う。</p> <p>○中世の日本の学習をふり返りながら自身の学びを確認, 調整しようとするとともに, 中世の時代の特色は何かを主体的に追究する態度を養う。</p> <p>【単元を貫く問い】 民衆の成長によって社会や文化はどのように変わったのだろうか。</p>	
<p>第3節の評価規準(★評定に用いる評価)</p>	<p>知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南北朝の動乱と室町幕府, 日明貿易, 琉球の国際的な役割などを基に, 諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ, 武家政治の展開とともに, 東アジア世界との密接な関わりがみられたことを理解している。 ・農業など諸産業の発達, 畿内を中心とした都市や農村における自治的なしくみの成立, 武士や民衆などの多様な文化の形成, 応仁の乱後の社会的な変動などを基に, 諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ, 民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解している。 <p>思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東アジアにおける交流, 応仁の乱の影響などに着目して, 事象を相互に関連づけるなどして, 武家政治の展開とともに, 東アジア世界との密接な関わりがみられたことについて多面的・多角的に考察し, 表現している。 ・中世の日本を大観して, 時代の特色を多面的・多角的に考察し, 表現している。 <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中世の日本の学習をふり返りながら自身の学びを確認, 調整しようとするとともに, 中世の時代の特色は何かを主体的に追究しようとしている。

累計時数	学習内容	学習のねらい	評価規準
33	<p>1 南北朝の動乱と室町幕府 (教科書 P. 88-89)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建武の新政 ・南北朝の動乱 ・守護大名と室町幕府 	<p>○京都で室町幕府が成立した過程について, 南北朝の動乱を通して考え, 表現する。</p> <p>○南北朝の動乱を通じて成長した守護大名について理解する。</p>	<p>思考・判断・表現</p> <p>足利尊氏が京都の北朝から征夷大將軍に任じられたことなどをふまえて, 京都に室町幕府を開いたことを考え, 表現している。</p> <p>知識・技能</p> <p>南北朝の動乱の時代を通じて, 守護がしだいに権限をもつようになり, 一国を支配する守護大名として成長したことを理解している。</p>
34	<p>2 東アジアの交流と琉球王国の成立 (教科書 P. 90-93)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明とのかかわり ・朝鮮とのかかわり ・中世の琉球やアイヌ ・中継貿易の展開 ・琉球の文化 	<p>○14～15世紀の東アジアでどのような交流が行われていたのかについて考え, 表現する。</p> <p>○中世の琉球の国際的な役割について, 琉球の文化にもふれながら理解する。</p>	<p>思考・判断・表現</p> <p>それぞれの国や地域の輸出入の品目に着目して, 日本と中国・朝鮮・琉球王国・アイヌなどとの関わりについて考え, 表現している。</p> <p>知識・技能</p> <p>琉球が日本, 明や朝鮮, 東南アジア諸国との中継貿易に従事したことや, 交易</p>

			の中で独自の文化が育まれたことを理解している。
35	3 産業の発展と都市と村 (教科書 P. 94-95) ・商人・手工業者の成長 ・都市と交通の発達 ・村の自治と土一揆	○産業の発展により、室町時代の人々の生活や意識がどのように変化したのかを考え、表現する。 ○産業の発達に伴い、どのようにして民衆は力を強めたのかについて理解する。	思考・判断・表現 鎌倉時代とのちがいに着目し、室町時代の商業と手工業の発達が経済を活発にさせ、人々の生活が向上したことを考え、表現している。 知識・技能 産業の発達によって都市や村が発達して、村では惣とよばれる自治組織のもと、農民が団結を強めたことを理解している。
36	4 応仁の乱と戦国大名 (教科書 P. 96-97) ・応仁の乱 ・自治の広まり ・戦国大名	○応仁の乱によって世の中が乱れ民衆たちが自分たちの生活を守るために自治をすすめ、各地で一揆が起こったことを理解する。 ○下剋上の風潮の中で、新しい支配者と支配のしくみが生まれたことを考え、表現する。	知識・技能 各地で自治を行う民衆が現れたことを、応仁の乱による幕府の勢力のおとろえと関連させて理解している。 思考・判断・表現 下剋上の風潮の中で戦国大名が現れ、領国支配のため分国法を定めたり、城下町をつくったりしたことを考え、表現している。
37	5 室町時代の文化とその広がり (教科書 P. 98-101) ・室町時代の文化 ・民衆文化の高まり	○室町時代の文化が、応仁の乱や民衆の成長を背景にしていることを理解する。 ○室町時代の文化の特徴について、武家と公家や中国との関係をふまえて考え、表現する。	知識・技能 応仁の乱により文化が地方へ広がったことや民衆文化の高まり、差別されていた人々も文化の担い手として活躍したことを理解している。 思考・判断・表現 室町時代の文化について、武家と公家の文化が混ざり合ったものであることと、禅宗の影響も受けたものであることを考え、表現している。
-	【でかけよう！地域調べ】 草戸千軒町遺跡を調べる (教科書 P. 102-103)	○博物館での調査を通して、身近な地域の歴史に対して興味や関心をもつ。 ○新聞づくりのため、必要な資料の収集と選択や、多面的・多角的な考察を行い、調査したことを適切に表現する。	主体的に学習に取り組む態度 身近な地域の歴史に興味や関心をもち、博物館を訪ねて主体的に追究し、調べたことを歴史新聞にまとめようとしている。 思考・判断・表現 調査した歴史上の出来事について多面的・多角的に考察し、適切に整理し選択したりして、効果的な表現方法を考え、工夫しながら新聞にまとめている。
38	【学習の整理と活用—とらえよう！「中世の日本と世界」の特色】 (教科書 P. 104-105) 「法」に着目して、時代の特色にせまろう	○古代と中世の「法」のちがいに着目し、中世の特色について多面的・多角的に考え、表現する。 ○「法」に着目し、内容やつくられた目的を整理する活動を通して、これまでの学習をふり振り返りながら、中世の特色について主体的に追究しようとする態度を養う。	思考・判断・表現 古代と中世の「法」の内容や目的を整理する活動を通して、各時代の「法」のちがいに着目し、中世の特色を多面的・多角的に考え、表現している。 主体的に学習に取り組む態度 これまでの学習活動をふまえ、中世の特色を主体的に追究し、様々な立場や観点から見い込もうとしている。

第4編の目標	
	<p>○近世の日本の大きな流れを、世界の歴史を背景に、時代の特色をふまえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身につける。</p> <p>○近世の日本に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、思考したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>○近世の日本に関わる諸事象について、そこでみられる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。</p> <p>【単元を貫く問い】（教科書P.109「めあて」）</p> <p>近世の江戸幕府と、中世の室町幕府の将軍の建物を比べて、どうしてこんなに大きさがちがうのか、この単元ではそのなぞを解いていきましょう。</p> <p>そして、「近世」とはどのような時代か、政治・社会・文化・外交の面で、これまでの時代とのちがいは何かなど、自分の言葉で説明できることをめざしましょう。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl;">（★評定に用いる評価）</p> <p style="writing-mode: vertical-rl;">第4編の評価規準</p>	<p>知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> 近世の日本の大きな流れを、世界の歴史を背景に、時代の特色をふまえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身につけている。
	<p>思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> 交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的、産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、近世の社会の変化のようすを多面的・多角的に考察し、表現している。 近世の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。
	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料から時代の移り変わりを読み取る活動を通して、近世の日本と世界について見通しをもって学習に取り組もうとしている。 近世の日本の学習をふり返りながら自身の学びを確認、調整しようとするとともに、近世の時代の特色は何かを主体的に追究しようとしている。

第1節 中世から近世へ

第1節の目標	
	<p>○ヨーロッパ人来航の背景とその影響、織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係、武将や豪商などの生活文化の展開などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、近世社会の基礎がつくられたことを理解する。</p> <p>○交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、近世社会の基礎がつくられたことについて多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。</p> <p>○資料から時代の移り変わりを読み取る活動を通して、近世の日本と世界について見通しをもって学習に取り組む態度を養う。</p> <p>【単元を貫く問い】</p> <p>ヨーロッパ人の来航や信長・秀吉の統一事業は、社会をどのように変えたのだろうか。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl;">（★評定に用いる評価）</p> <p style="writing-mode: vertical-rl;">第1節の評価規準</p>	<p>知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ヨーロッパ人来航の背景とその影響、織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係、武将や豪商などの生活文化の展開などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、近世社会の基礎がつくられたことを理解している。
	<p>思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> 交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、近世社会の基礎がつくられたことについて多面的・多角的に考察し、表現している。
	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料から時代の移り変わりを読み取る活動を通して、近世の日本と世界について見通しをもって学習に取り組もうとしている。

累計 時数	学習内容	学習のねらい	評価規準
39	【導入】(教科書 P. 106-111) ・「近世の日本と世界」の 特色を探っていこう ・地図で見る世界の動き— 15世紀の世界と日本	○中世と近世の幕府の建物の比較を通して、当時の日本のようすをイメージし、近世の日本について主体的に考える態度を養う。 ○資料の読み取りなどを通して、15世紀の世界の広がりや交易ルート、15～18世紀の日本と世界の動きについて理解する。	主体的に学習に取り組む態度 近世の日本と世界について、見通しをもって学習に取り組もうとし、課題を主体的に追究しようとしている。 知識・技能 地図や年表から15世紀頃の世界の広がりや交易ルート、15世紀～18世紀の日本と世界の動きを理解している。
40	1 イスラム教の世界とキリスト教の世界 (教科書 P. 112-113) ・イスラム教の世界の発展 ・キリスト教の世界の変化とルネサンス ・宗教改革	○イスラム教世界が繁栄した理由を、文化や交易の視点からとらえて考え、表現する。 ○イスラム教世界の発展を背景としたキリスト教世界の変化を理解する。	思考・判断・表現 イスラム教世界が繁栄した背景をイスラム教の文化やムスリム商人の活躍に着目して考え、表現している。 知識・技能 イスラム教世界の発展と拡大の影響を受けたキリスト教世界でルネサンスや宗教改革の動きが起こり、やがてアジアやアメリカへの進出につながったことを理解している。
41	2 つながれてゆく世界 (教科書 P. 114-115) ・キリスト教国による新航路の開拓 ・一体化する世界	○なぜ世界が一体化したのかを、ヨーロッパ人が新航路を開いた地域や目的に着目して考え、表現する。 ○新航路の発見により、他地域との交易や植民地化が進められ、世界が一体化していったことを理解する。	思考・判断・表現 ヨーロッパ諸国が新航路を開いた地域や目的に着目し、15世紀末以降の世界が一体化していった理由を考え、表現している。 知識・技能 新航路の発見が、ヨーロッパと他地域との交易を盛んにすると同時に、ヨーロッパ諸国を中心に世界の一体化が始まったことを理解している。
42	3 ヨーロッパ人の来航と信長(教科書 P. 116-117) ・鉄砲とキリスト教の伝来 ・織田信長の統一事業	○この時代にヨーロッパ人が伝えた鉄砲・キリスト教が、日本の社会にあたえた影響を考え、表現する。 ○織田信長の統一事業の影響を、その経済政策、宗教政策などと関連づけて理解する。	思考・判断・表現 鉄砲とキリスト教の伝来に着目し、ヨーロッパ人が戦国時代の社会にあたえた影響を考え、表現している。 知識・技能 織田信長の政策を整理し、そのねらいと中世に大きな力をもった勢力が力を失ったことを理解している。
43	4 秀吉による全国統一 (教科書 P. 118-119) ・豊臣秀吉の全国統一 ・太閤検地 ・刀狩	○豊臣秀吉が信長の統一事業を引き継いで全国統一を成し遂げた過程を理解する。 ○太閤検地や刀狩などの政策から、兵農分離を進め、近世社会の基礎がつくられたことについて考え、表現する。	知識・技能 信長の統一事業を引き継いだ豊臣秀吉が、朝廷の権威も利用しながら全国統一を成し遂げていったことを理解している。 思考・判断・表現 秀吉が太閤検地や刀狩を実施した目的に着目し、兵農分離を進め、全国を一律に支配する政策により近世社会の基礎がつくられたことを考え、表現している。

44	5 秀吉の海外政策 (教科書P.120-121) ・東アジアにおける貿易 ・秀吉の朝鮮への侵略	○秀吉の海外政策について国内の政治や経済をふまえて理解する。 ○朝鮮への侵略が日本や朝鮮に与えた影響について多面的・多角的に考え、表現する。	知識・技能 東アジアとの貿易を重視する一方で、朝鮮を侵略しようとした豊臣秀吉の意図を国内の政治や経済をふまえて理解している。 思考・判断・表現 秀吉の朝鮮侵略について、日本・朝鮮の両国にどのような影響をあたえたのかに着目し、双方の視点から考え、表現している。
45	6 安土桃山時代の文化 (教科書P.122-123) ・桃山文化	○信長や秀吉の統一事業を背景に、文化の担い手が中世とは異なることを知り、桃山文化の特徴を理解する。 ○安土桃山時代の文化が生み出された背景について、室町文化の特徴とのちがいに着目して考え、表現する。	知識・技能 文化を建築、絵画、工芸、芸能などの分野別に整理してとらえ、大名や豪商などの町衆たちに支えられた文化であることを理解している。 思考・判断・表現 大名や豪商の気風や経済力を背景として豪華・雄大な桃山文化が生み出されたことを、室町文化とのちがいに着目して考え、表現している。
-	【でかけよう！地域調べ】 城下町姫路を調べる (教科書P.124-125)	○城下町について、新旧の地図を比較し、現代に伝わる町名に着目するなど、身近な地域の歴史を調べる技能を身につける。 ○新旧の地図の読み取りを通して、身近な地域の歴史的な特徴について主体的に追究する態度を養う。	知識・技能 新旧の姫路城周辺の地図を比較し、近世の城下町の名残を読み取るなど、調べる技能を身につけている。 主体的に学習に取り組む態度 新旧の地図の読み取りをきっかけにして、身近な地域の城下町について関心をもち、身近な地域の歴史的な特徴を主体的に追究しようとしている。

第2節 江戸幕府の成立と東アジア

第2節の目標	
<p>○江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村のようす、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、幕府と藩による支配が確立したことを理解する。</p> <p>○統一政権の諸政策の目的や幕府、藩、隣接地域の関係などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、幕府と藩による支配が確立したことについて多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。</p> <p>【単元を貫く問い】 なぜ江戸幕府の支配体制は安定していたのだろうか。</p>	
<p>(★第2節の評価規準に用いる評価)</p>	<p>知識・技能 ・江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村のようす、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、幕府と藩による支配が確立したことを理解している。</p> <p>思考・判断・表現 ・統一政権の諸政策の目的や幕府、藩、隣接地域の関係などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、幕府と藩による支配が確立したことについて多面的・多角的に考察し、表現している。</p>

累計 時数	学習内容	学習のねらい	評価規準
46	1 全国支配のしくみ (教科書 P. 126-127) ・徳川 260 年の基礎 ・将軍の大名支配	○諸資料を基に、徳川家康による全国支配確立の過程と、江戸幕府による大名支配のあり方を理解する。 ○江戸幕府の諸政策に着目して、260年にわたって徳川氏の支配が続いた理由を考え、表現する。	知識・技能 江戸幕府が開かれた過程と、幕府による大名支配に関する政策の内容やその目的を、諸資料から理解している。 思考・判断・表現 幕府の財政や大名統制に着目して、安定した全国支配を確立できた理由を考え、表現している。
47	2 朱印船貿易から鎖国へ (教科書 P. 128-129) ・朱印船貿易 ・島原・天草一揆 ・鎖国	○江戸時代の初期、幕府が朱印船貿易やヨーロッパ人の来航を推進したことを理解する。 ○江戸幕府が鎖国へと対外政策を転換した理由を、貿易・宗教・情報に着目しながら考え、表現する。	知識・技能 江戸幕府は、当初貿易による利益を重視し、朱印船貿易やヨーロッパ人の来航を推進したことを理解している。 思考・判断・表現 江戸幕府が鎖国を行った理由を、キリスト教の布教による影響と、貿易の利益と海外情報の独占に着目して考え、表現している。
48	3 隣接地域との関係とアイヌ文化の成熟 (教科書 P. 130-133) ・朝鮮との国交回復 ・琉球王国 ・蝦夷地とアイヌ ・アイヌ文化の成熟	○鎖国下の日本において、朝鮮・琉球・蝦夷地とも交流があったこと、蝦夷地ではアイヌ文化が成熟していたことを理解する。 ○江戸幕府はどのようにして隣接地域と関係を保持していたかについて、幕府、藩、隣接地域の関係に着目して考え、表現する。	知識・技能 鎖国政策のもとでも当時の日本は、朝鮮・琉球・蝦夷地と交流があったことや蝦夷地でアイヌ文化が成熟していたことを理解している。 思考・判断・表現 江戸幕府が対馬・薩摩・松前の各藩を通して朝鮮・琉球・蝦夷地と関係をもっていた状況について考え、表現している。
49	4 江戸時代の百姓と町人 (教科書 P. 134-135) ・百姓と村 ・町人と町 ・江戸時代の身分制	○江戸時代の身分制について、それぞれの役割とともに理解する。 ○江戸幕府が民衆支配を強化するにあたり、身分制を利用したことに着目して、江戸時代の社会の特色を考え、表現する。	知識・技能 武士や百姓、町人、「えた」「ひにん」身分の人々がそれぞれの身分の中で職分を果たしたことを理解している。 思考・判断・表現 幕藩体制の維持と強化のため、身分制が利用されたことに着目し、江戸時代の社会の特色を考え、表現している。
50	【チャレンジ歴史】 江戸幕府のライバル対策を通して、中世から近世への変化を考えよう (教科書 P. 136-137)	○江戸幕府が様々な勢力に対して行った政策とそのねらいを、諸資料から読み取る。 ○江戸幕府が行った政策によって、武家政権による全国支配が確立されたことを、中世と比較して考え、表現する。	知識・技能 江戸幕府が様々な勢力に対して行った政策とそのねらいを、諸資料から読み取っている。 思考・判断・表現 江戸幕府が様々な勢力に対して行った政策とそのねらいを整理し、中世社会で力をもっていた勢力をおさえて幕府が強力な全国支配を行ったことについて考え、表現している。

第 3 節 産業の発達と元禄文化

第 3 節の目標	
<p>○産業や交通の発達，教育の普及と文化の広がりなどを基に，諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ，町人文化が都市を中心に形成されたことや，各地方の生活文化が生まれたことを理解する。</p> <p>○新田開発や新しい技術が開発されたことの影響や文化の時期，場所，担い手などに着目して，事象を相互に関連づけるなどして，町人文化が都市を中心に形成されたことや，各地方の生活文化が生まれたことについて多面的・多角的に考察し，表現する力を養う。</p>	
<p>【単元を貫く問い】 なぜ都市を中心とした町人文化が形成されたのだろうか。</p>	
<p>（★第 3 節の 評価規 準）</p>	<p>知識・技能</p> <p>・産業や交通の発達，教育の普及と文化の広がりなどを基に，諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ，町人文化が都市を中心に形成されたことや，各地方の生活文化が生まれたことを理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>・新田開発や新しい技術が開発されたことの影響や文化の時期，場所，担い手などに着目して，事象を相互に関連づけるなどして，町人文化が都市を中心に形成されたことや，各地方の生活文化が生まれたことについて多面的・多角的に考察し，表現している。</p>

累計 時数	学習内容	学習のねらい	評価規準
51	<p>1 産業の発達と都市（教科書 P.138-141）</p> <p>・農業の発達</p> <p>・諸産業の発達</p> <p>・にぎわう三都と交通網の発達</p>	<p>○江戸時代において，諸産業が発達するとともに交通網が整備され，都市が発展したことを理解する。</p> <p>○江戸時代の産業や交通の発達にともなう社会の変化について，新たな技術の開発などに着目して考え，表現する。</p>	<p>知識・技能</p> <p>江戸時代に諸産業が発達するとともに交通網が整備され，江戸・大阪・京都が発展したことを理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>新たな技術の開発などが社会にあたえた影響に着目して，江戸時代の産業や交通網の発達にともなう社会の変化を考え，表現している。</p>
52	<p>2 江戸時代前期の文化と学問（教科書 P.142-145）</p> <p>・元禄文化</p> <p>・学問と教育</p> <p>・庶民のくらし</p>	<p>○江戸時代前期の元禄文化や学問の特色を理解する。</p> <p>○元禄文化が発達した要因，また，学問の広まりがみられた背景について，当時の社会のようすに着目して考え，表現する。</p>	<p>知識・技能</p> <p>上方を中心に町人が担い手となり元禄文化が発展したことや，武士や庶民にも学問が広がったことを理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>元禄文化が発達したことや学問の広まりがみられた背景について社会の安定や発達などから考え，表現している。</p>

第4節 幕府政治の改革と農村の変化

第4節の目標	
<p>○社会の変動や幕府の政治改革，新しい学問・思想の動きなどを基に，諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ，幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解する。</p> <p>○幕府の財政難の原因や社会の変化，民衆の動きなどに着目して，事象を相互に関連づけるなどして，幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことについて多面的・多角的に考察し，表現する力を養う。</p> <p>○近世の日本の学習をふり返りながら自身の学びを確認，調整しようとするとともに，近世の時代の特色は何かを主体的に追究する態度を養う。</p> <p>【単元を貫く問い】 なぜ江戸幕府の政治は行き詰まっていったのだろうか。</p>	
(★評価に用いる評価)	<p>知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会の変動や幕府の政治改革，新しい学問・思想の動きなどを基に，諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ，幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解している。
	<p>思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幕府の財政難の原因や社会の変化，民衆の動きなどに着目して，事象を相互に関連づけるなどして，幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことについて多面的・多角的に考察し，表現している。 ・近世の日本と世界を大観して，時代の特色を多面的・多角的に考察し，表現している。
	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近世の日本の学習をふり返りながら自身の学びを確認，調整しようとするとともに，近世の時代の特色は何かを主体的に追究しようとしている。

累計 時数	学習内容	学習のねらい	評価規準
53	<p>1 幕府政治の改革 (教科書P.146-147)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・綱吉・吉宗の政治 ・田沼と定信の政治 	<p>○江戸幕府による政治改革について整理し，それぞれの改革の内容を理解する。</p> <p>○幕府の財政難の原因と改革で行われた政策との対応に着目して，政治が行き詰まったことを考え，表現する。</p>	<p>知識・技能</p> <p>江戸幕府による諸改革の内容（ねらいや手段）や結果について，諸資料を基に整理してまとめ，理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>幕府の財政難の原因と改革で行われた政策が対応していないことをふまえて，政治改革が十分な成果を上げられず，政治が行き詰まったことを考え，表現している。</p>
54	<p>2 農村の変化と民衆の動き (教科書P.148-149)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変わる農村 ・百姓一揆と打ちこわし 	<p>○商品作物の栽培の広がりや，貨幣経済の浸透による社会の変化について理解する。</p> <p>○百姓一揆や打ちこわしが増加した背景について，農村の変化や当時の社会状況と関連づけて考え，表現する。</p>	<p>知識・技能</p> <p>商品作物の栽培の広がりや貨幣経済の浸透により，農村で階層分化が進んだことを理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>貨幣経済の浸透や農村での階層分化を背景に，天候不順なども相まって，百姓一揆や打ちこわしの件数が増大したことを考えて，表現している。</p>
55	<p>3 江戸時代後期の学問と文化 (教科書P.150-153)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国学と蘭学 ・化政文化 	<p>○18世紀に入り発達した新しい学問と，江戸を中心に栄えた化政文化のそれぞれの特色について理解する。</p> <p>○新しい学問が発達した背景と，化政文化が栄えた要因に</p>	<p>知識・技能</p> <p>国学や蘭学が発達し，新しい時代を切り開く動きにつながったことや江戸を中心に民衆文化（化政文化）が栄えたことを理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p>

		について考え、表現する。	社会の変化や幕府の政策の変容などに着目し、新しい学問が発達したり、化政文化が栄えたりした背景について考え、表現している。
-	【先人に学ぶ】 幕府のはげ山対策と都市に住む人々のリサイクル (教科書 P. 154-155)	○江戸幕府が行った植林事業や民衆のくらしの中にあるリサイクルのしくみなど、当時の環境対策や循環型社会のようすを理解する。 ○江戸時代における「ものを大切にする」という考え方をふまえ、現代に適応できることはないか考え、表現する。	知識・技能 江戸幕府がはげ山対策を実施していたことや、現代にも通じるリサイクルのしくみがみられたことを理解している。 思考・判断・表現 江戸時代における「ものを大切にする」という考え方をふまえ、現代社会に応用できることについて考え、表現している。
56	【学習の整理と活用—とらえよう！「近世の日本と世界」の特色】 (教科書 P. 156-157) 「幕府の収入」に着目して、近世の特色にせまろう	○幕府の収入の推移に着目して、近世の特色を多面的・多角的に考え、表現する。 ○「幕府の収入」に着目し、諸改革の内容を整理する活動を通して、これまでの学習をふり返りながら、近世の特色について主体的に追究しようとする態度を養う。	思考・判断・表現 幕府の収入の推移に着目し、諸改革の内容を整理する活動を通して、近世の特色を考え、表現している。 主体的に学習に取り組む態度 これまでの学習活動をふまえ、近世の特色を主体的に追究し、様々な立場や観点から見いだそうとしている。

第5編第1章の目標

- 近代（前半）の日本の大きな流れを、世界の歴史を背景に、時代の特色をふまえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身につける。
- 近代（前半）の日本に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、思考したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- 近代（前半）の日本に関わる諸事象について、そこでみられる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

【単元を貫く問い】（教科書P.159「めあて」）

なぜ、武家の象徴である城の天守閣はこわされたのでしょうか。江戸幕府の将軍がいた江戸城の新しい主として、天皇が入城することは、どのような意味をもつのでしょうか。日本国内の改革や諸外国との関係に着目しながら、学んでいきましょう。

そして、「近代（前半）」はどのような時代か、政治・社会・文化・外交の面で、これまでの時代とのちがいは何かなどを、自分の言葉で説明できることをめざしましょう。

(★ 第5編第1章の 評価規準 に用いる評価)	知識・技能
	・近代（前半）の日本の大きな流れを、世界の歴史を背景に、時代の特色をふまえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身につけている。
	思考・判断・表現
	・工業化の進展と政治や社会の変化、明治政府の諸改革の目的、議会政治や外交の展開、近代化がもたらした文化への影響などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、近代（前半）の社会の変化のようすを多面的・多角的に考察し、表現している。
	・近代（前半）の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。
	主体的に学習に取り組む態度
	・資料から時代の移り変わりを読み取る活動を通して、近代（前半）の日本と世界について見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	・近代（前半）の日本の学習をふり返りながら自身の学びを確認、調整しようとするとともに、近代（前半）の時代の特色は何かを主体的に追究しようとしている。

第1節 欧米の発展とアジアの植民地化

第1節の目標

- 欧米諸国における産業革命や市民革命、アジア諸国の動きなどを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解する。
- 欧米諸国における工業化の進展と政治や社会の変化と影響などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。
- 資料から時代の移り変わりを読み取る活動を通して、近代（前半）の日本と世界について見通しをもって学習に取り組む態度を養う。

【単元を貫く問い】

なぜアジアに欧米諸国の植民地が広がったのだろうか。

(★評定に用いる評価)	<p>第1節の評価規準</p> <p>知識・技能 ・欧米諸国における産業革命や市民革命、アジア諸国の動きなどを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解している。</p> <p>思考・判断・表現 ・欧米諸国における工業化の進展と政治や社会の変化と影響などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 ・資料から時代の移り変わりを読み取る活動を通して、近代（前半）の日本と世界について見通しをもって学習に取り組もうとしている。</p>
-------------	---

累計 時数	学習内容	学習のねらい	評価規準
57	【導入】(教科書P.158-161) ・「近代（前半）の日本と世界」の特色を探っている ・地図で見る世界の動き—19世紀後半の世界と日本	○社会の変化を示す資料の比較を通して、当時の日本のようすをイメージし、開国とその影響について主体的に考える態度を養う。 ○資料の読み取りなどを通して、江戸時代から明治時代にかけての世界の国々の対立や日本と世界の動きについて理解する。	主体的に学習に取り組む態度 近代（前半）の日本と世界について、見通しをもって学習に取り組もうとし、課題を主体的に追究しようとしている。 知識・技能 地図や年表から当時の世界情勢についてまとめ、これまでの時代とのちがいや欧米諸国の接近と開国に至るまでの日本と世界の動きを理解している。
58	1 産業革命 (教科書P.162-163) ・プランテーションと奴隷制 ・イギリスの産業革命 ・産業革命の影響	○資料の読み取りなどを通して、イギリスの産業革命による資本主義社会の成立や労働問題・社会問題の発生を理解する。 ○イギリスの産業革命の前と後では経済や社会がどのように変化したかについて、その影響を考え、表現する。	知識・技能 イギリスの産業革命により、資本主義社会が成立したことや、労働問題・社会問題が発生したことに関心し、その内容を理解している。 思考・判断・表現 イギリスが産業革命に至るまでの過程や、産業革命による経済的、社会的影響などの変化について考え、表現している。
59	2 王政から議会制へ (教科書P.164-165) ・イギリスやフランスの王政 ・イギリスの議会政治 ・啓蒙思想	○イギリスで王政の代わりに議会制が確立した過程について理解する。 ○議会制が確立したことによる変化や啓蒙思想の影響について考え、表現する。	知識・技能 イギリスで議会制が確立した過程について、王政に対する民衆の動きをふまえて、理解している。 思考・判断・表現 議会制の確立について国王と議会の関係の変化や、啓蒙思想による議会政治の発展に着目して考え、表現している。
60	3 アメリカの独立とフランス革命 (教科書P.166-167) ・アメリカの独立 ・フランス革命	○諸資料の読み取りを通して、アメリカ独立戦争やフランス革命に至るまでの過程について理解する。 ○市民革命によって、議会制民主主義と近代市民社会が成立していったことについて考え、表現する。	知識・技能 市民革命では、政治的な対立と社会の混乱、そこで生じた犠牲などを経て近代民主政治への動きがみられたことを理解している。 思考・判断・表現 市民革命の影響について、自由や平等を求めたアメリカ独立とフランス革命の

	<ul style="list-style-type: none"> ・大塩の乱と天保の改革 ・雄藩の成長 	<p>る。</p> <p>○社会の変化に対し、改革に失敗した幕府と成功した諸藩の対応のちがいを追究して、幕末の政治への影響について考え、表現する。</p>	<p>長など西南雄藩が藩政改革を成功させたことを理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>従来大きな力をもっていた幕府が国内外の課題の対応に失敗し、改革に成功した西南雄藩の影響力が高まったことを考え、表現している。</p>
64	<p>2 開国 (教科書 P. 174-175)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペリーの来航 ・不平等条約の締結 ・経済の混乱 	<p>○ペリーの来航を機に、アメリカの要求を受け入れ、不平等条約を結んだ幕府の政策転換の経緯について理解する。</p> <p>○資料を活用しながら、開国後の物価高の理由について考察し、国内の混乱が日本にあたえた影響を考え、表現する。</p>	<p>知識・技能</p> <p>日米和親条約・日米修好通商条約の締結に関わったアメリカと幕府の人物の動きや、各条約の内容のちがいを理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>金銀比価問題と関税自主権を喪失する中で貿易が始まり、物価高が生じて民衆の生活を圧迫したことを考え、表現している。</p>
65	<p>3 江戸幕府の滅亡 (教科書 P. 176-177)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・尊王攘夷から倒幕へ ・世直し ・王政復古と戊辰戦争 	<p>○開国後の混乱を背景に尊王攘夷論が発生し、幕府が攘夷を実行しようとする勢力を弾圧したのち、倒幕勢力が生まれてきたことを理解する。</p> <p>○大政奉還後、王政復古の号令が宣言され、戊辰戦争が発生した経過について考え、表現する。</p>	<p>知識・技能</p> <p>安政の大獄などで幕府が尊王攘夷運動を弾圧する一方、薩長は攘夷を執行し失敗したことを通して、倒幕へ傾いていったことを理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>大政奉還後、新政府軍と旧幕府軍のあいだで戊辰戦争が発生し、勝利した新政府軍による新しい政治が始まった過程を考え、表現している。</p>
-	<p>【歴史を掘り下げる】 新しい世の中をめざした人々 (教科書 P. 178-179)</p>	<p>○農作物に関する国訴や渋染一揆を通して、自由や平等を求めた動きが江戸時代後期にすでに民衆の中で発生していたことを理解する。</p> <p>○鎖国下でも海外に渡り、日本の今後のありかたについて検討した人々の取り組みが、幕末の激動や新政府の国家構想に反映されていることを考え、表現する。</p>	<p>知識・技能</p> <p>江戸時代の身分制のもと、経済的な自由や差別の撤回を求めた人々が存在したことを理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>日本が植民地化される危険性を訴えた高杉の日記や、海援隊で議論されていた国家構想などの読み取りを通して、彼らの歴史的業績を考え、表現している。</p>

第3節 近代国家へのあゆみ

第3節の目標	
<p>○富国強兵・殖産興業政策，文明開化の風潮などを基に，諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ，明治維新によって近代国家の基礎が整えられて，人々の生活が大きく変化したことを理解する。</p> <p>○幕藩体制とのちがいや諸政策の目的，諸外国との関係などに着目して，事象を相互に関連づけるなどして，明治維新によって近代国家の基礎が整えられて，人々の生活が大きく変化したことについて多面的・多角的に考察し，表現する力を養う。</p> <p>【単元を貫く問い】 明治維新の諸政策によって社会はどのように変化したのだろうか。</p>	
<p>(★第3節の評価規準 に用いる評価)</p>	<p>知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> 富国強兵・殖産興業政策，文明開化の風潮などを基に，諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ，明治維新によって近代国家の基礎が整えられて，人々の生活が大きく変化したことを理解している。 <p>思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> 幕藩体制とのちがいや諸政策の目的，諸外国との関係などに着目して，事象を相互に関連づけるなどして，明治維新によって近代国家の基礎が整えられて，人々の生活が大きく変化したことについて多面的・多角的に考察し，表現している。

累計時数	学習内容	学習のねらい	評価規準
66	1 明治維新 (教科書P.180-181) ・新政府の成立 ・廃藩置県 ・身分制の廃止と四民平等	<p>○幕藩体制と比較し，新政府がめざした政治の方針の意図について，学習した諸政策をふまえて考え，表現する。</p> <p>○明治新政府が示した方針に基づいて，廃藩置県や四民平等などの様々な改革を行ったが，徹底されていない部分も存在したことを理解する。</p>	<p>思考・判断・表現</p> <p>地方分権的な幕藩体制と比較し，明治新政府の諸政策が天皇を中心とした中央集権国家の建設をめざしたことを考え，表現している。</p> <p>知識・技能</p> <p>版籍奉還・廃藩置県・解放令による四民平等などの諸政策が行われたが，五榜の掲示や平等の不徹底が存在したことを理解している。</p>
67	2 殖産興業と富国強兵 (教科書P.182-184) ・殖産興業 ・国民皆兵と徴兵令 ・地租改正	<p>○官営模範工場建設などの殖産興業策や徴兵令，地租改正の内容とそれぞれの目的について理解する。</p> <p>○新政府が富国強兵策をすすめて近代国家建設を急いだ理由について，殖産興業・徴兵令・地租改正の内容をふまえて考え，表現する。</p>	<p>知識・技能</p> <p>国内経済の活性化により国力をつけるための殖産興業，近代的な軍隊をつくるための徴兵令，政府の財政を安定させるための地租改正であったことを理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>政策の内容から，列強諸国に対抗し，植民地化を免れようとしたことを考え，表現している。</p>
-	【でかけよう！地域調べ】 富岡製糸場を調べる (教科書P.185)	<p>○近代化遺産について知ることので，史跡の存在意義の大きさを知ったり，遺産を訪ねて調べたりすることで，これまでの学習内容と関連させられることに気づく。</p> <p>○富岡製糸場の世界文化遺産への登録から，日本の近代化が</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>富岡製糸場建設の地理的・歴史的要因と存在意義の大きさをふまえ，これまで学習してきた内容と関連させて考えようとしている。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>明治時代の生糸を中心とした殖産興業の展開をふまえて，富岡製糸場が近代化</p>

		果たした世界的役割や意義の大きさを考え、表現する。	遺産・世界遺産・国宝に登録された意義を考え、表現している。
68	3 文明開化の展開 (教科書 P.186-189) ・国民皆学と学制 ・国民をつくる ・さまざまな文明開化	○学制や文明開化にみられる生活の近代化について、現在の私たちの生活に伝わっているものを挙げながら理解する。 ○明治政府が文明開化をすすめた理由について、江戸時代の思想・教育と比較して考え、表現する。	知識・技能 学制の実際や文明開化の風潮について、停滞した時期等の存在もふまえたうえで理解している。 思考・判断・表現 文明開化が、洋風の生活様式や教育等の受容にとどまらず、近代国家建設に不可欠な「国民」の創出をめざしていたことを、江戸時代とのちがいをふまえて考え、表現している。
69	4 近代的な国際関係の形成 (教科書 P.190-191) ・岩倉使節団の動き ・清や朝鮮との外交	○地図や資料を活用して、岩倉使節団の働きや、清や朝鮮と結んだ条約の内容について理解する。 ○明治政府の外交政策が、対欧米と対アジアとで異なっていることをふまえ、その理由について考え、表現する。	知識・技能 岩倉使節団を派遣し欧米の制度に学ぶ一方、相手国によって異なった外交関係を樹立したことを理解している。 思考・判断・表現 万国公法体制に基づき、不平等条約を受け入れさせられた日本は、同じ原理に基づき、アジア諸国と条約を結んだことを考え、表現している。
70	5 領土の画定と隣接地域 (教科書 P.192-193) ・領土の画定をめざして ・琉球から沖縄へ ・北海道とアイヌの人々	○明治政府が行った領土の画定や領有した地域の開発について、沖縄と北海道を中心に理解する。 ○領有に際しての交渉や、領有した地域のようなすをふまえて、領土の画定そのものがもつ意味について考え、表現する。	知識・技能 資料の読み解きなどを通して、樺太・千島交換条約や沖縄県の設置などについて理解している。 思考・判断・表現 明治政府は従来の東アジアの冊封体制を万国公法体制へ移行するための領土画定を実施し、近代的な国際秩序への参加を求めたことを考え、表現している。

第4節 立憲制国家の成立

第4節の目標	
<p>○自由民権運動、大日本帝国憲法の制定などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、立憲制の国家が成立して議会政治が始まったことを理解する。</p> <p>○国民と政府の国会開設やめざした憲法の在り方のちがいなどに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、立憲制の国家が成立して議会政治が始まったことについて多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。</p> <p>【単元を貫く問い】 日本における議会政治はどのように始まったのだろうか。</p>	
(★) 第4節の評価規準に用いる評価	<p>知識・技能 ・自由民権運動、大日本帝国憲法の制定などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、立憲制の国家が成立して議会政治が始まったことを理解している。</p> <p>思考・判断・表現 ・国民と政府の国会開設やめざした憲法の在り方のちがいなどに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、立憲制の国家が成立して議会政治が始まったことについて多面的・多角的に考察し、表現している。</p>

累計 時数	学習内容	学習のねらい	評価規準
71	1 士族の反乱と自由民権運動 (教科書 P. 194-195) ・ 統廃する士族の反乱 ・ 国会開設の要求	○政府内で、留守政府側と岩倉使節団側が政策をめぐって対立したことを理解する。 ○不満を高めた士族が起こした反乱や、国会開設で政府の改革を迫ろうとする自由民権運動が起きた過程を考え、表現する。	知識・技能 不平士族の不満をそらすため征韓論を主張する陣営と、国内政治の優先を主張する陣営が激しく対立したことを理解している。 思考・判断・表現 士族の反乱や自由民権運動が起こった経緯について、政府を離れた西郷隆盛と板垣退助の動きに着目して考え、表現している。
72	2 憲法をめぐる対立 (教科書 P. 196-197) ・ 私擬憲法の起草と政府内の対立 ・ 国会開設の公約 ・ 政党の結成と運動の激化	○憲法がつくられるまでの間、民意を政治にどう反映させるかをめぐり、どのような運動が起こったのかを理解する。 ○自由民権運動がどのように展開されたのかについて考え、表現する。	知識・技能 国会開設までの過程における政府と、それに対抗する自由民権運動の動きについて理解している。 思考・判断・表現 自由民権運動の展開について、私擬憲法の作成や政党の結成、激化する急進派の動きなどを、政府との対立を軸に考え、表現している。
73	3 大日本帝国憲法の制定 (教科書 P. 198-199) ・ 内閣制度の成立 ・ 大日本帝国憲法と教育勅語	○大日本帝国憲法の制定の過程と内容を理解する。 ○帝国議会や地方制度の整備も進められ、近代国家としての形が整えられていった過程を考え、表現する。	知識・技能 ヨーロッパの憲法に学んで制定された大日本帝国憲法と、自由民権運動がめざす憲法を比較して、大日本帝国憲法の内容を理解している。 思考・判断・表現 明治政府がどのような国づくりをめざしたのかを、内閣制度、憲法、教育勅語、地方制度などの内容から考え、表現している。
74	4 藩閥政府と民党 (教科書 P. 200-201) ・ 帝国議会の開設と総選挙 ・ 初期議会期の藩閥政府と民党 ・ 法律の整備	○帝国議会のしくみと選挙権について調べるとともに、法制を整備する体制が整ったことで、近代的な国家のしくみが完成したことを理解する。 ○政府と議会が対立していた理由を考え、表現する。	知識・技能 帝国議会のしくみと選挙権、法律を整備することで近代的な国家のしくみが完成したことを理解している。 思考・判断・表現 政府のねらいと国民の願いの差に着目し、政府と議会が対立した理由を考え、表現している。

第5節 日清・日露の戦争と東アジアの動き

第5節の目標	
<p>○日清・日露戦争，条約改正などを基に，諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ，戦争のあらましと国内外の反応，韓国の植民地化や日本の国際的な地位が向上したことを理解する。</p> <p>○日清・日露戦争が起こった背景や結果，国内外の反応，条約改正が達成された過程などに着目して，事象を相互に関連づけるなどして，日本の国際的地位が向上したことについて多面的・多角的に考察し，表現する力を養う。</p> <p>【単元を貫く問い】 日清・日露戦争，条約改正は日本にどのような影響をあたえたのだろうか。</p>	
(★) 第5節の評価規準に用いる評価	<p>知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> 日清・日露戦争などを基に，諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ，戦争に至るまでの日本の動き，戦争のあらましと国内外の反応，韓国の植民地化が行われたことを理解している。 条約改正などを基に，諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ，長年の外交上の課題として取り組まれた欧米諸国との対等な外交関係の樹立が達成されたことを理解している。
	<p>思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> 日清・日露戦争が起こった背景や結果，国内外の反応，条約改正が達成された過程などに着目して，事象を相互に関連づけるなどして，日本の国際的地位が向上したことについて多面的・多角的に考察し，表現している。

累計時数	学習内容	学習のねらい	評価規準
75	<p>1 列強の動向とアジア (教科書P.202-203)</p> <ul style="list-style-type: none"> アジアとアフリカの植民地 条約改正の実現 朝鮮をめぐる東アジア情勢 	<p>○帝国主義諸国がアジアやアフリカを植民地化した目的と支配の状況を理解する。</p> <p>○日本が条約改正をすすめた理由について，国際情勢の変化があたえた影響に着目して考え，表現する。</p>	<p>知識・技能 産業の発展に伴い，製品の市場，原料や労働力を求めた帝国主義諸国が，アジアやアフリカへ軍力による侵略を重ねたことを理解している。</p> <p>思考・判断・表現 近代国家として帝国主義諸国とも対等な地位を得るため，日本が条約改正をすすめたことを考え，表現している。</p>
76	<p>2 朝鮮をめぐる対立 (教科書P.204-205)</p> <ul style="list-style-type: none"> 日清戦争 下関条約と三国干渉 政党勢力の成長と立憲政友会の成立 	<p>○日清戦争について，日本と諸外国の意図を比較して理解する。</p> <p>○日清戦争後の日本国内の政治について，政党の動きを中心に考え，表現する。</p>	<p>知識・技能 近代化を進めた日本は，日清戦争に勝利したが，日本の勢力拡大を警戒したヨーロッパ勢力が三国干渉を行ったことを理解している。</p> <p>思考・判断・表現 日清戦争後のロシアとの対立に備え，政府と民党が接近し，政府も政党を結成するなど政党の力が強まったことを考え，表現している。</p>
77	<p>3 朝鮮・満州をめぐる日本とロシアの対立 (教科書P.206-207)</p> <ul style="list-style-type: none"> 満州をめぐる日本とロシアの対立 日露戦争 ポーツマス条約と満州経 	<p>○日本がロシアとの戦争にふみ切った理由を理解する。</p> <p>○日露戦争の戦いのようすやポーツマス条約の内容，それに対する国民の反応について考え，表現する。</p>	<p>知識・技能 開戦理由について，日本における朝鮮の重要性，南下政策をすすめるロシアと，それをおさえたいイギリスのねらいをふまえて理解している。</p> <p>思考・判断・表現 日露戦争が日清戦争よりも大規模な戦</p>

	営		争であったことや、賠償金が取れず、それに国民が不満を抱いたことなどを考え、表現している。
78	4 日本の朝鮮支配 (教科書 P. 208-209) ・韓国併合 ・中華民国の成立	○日本による朝鮮支配の過程と中国の近代化の結果を理解する。 ○日本の朝鮮支配と中国の近代化を通して、日露戦争後の東アジアの状況を考え、表現する。	知識・技能 日露戦争後、日本が韓国を併合して植民地とする一方、中国では近代化をめざす辛亥革命が起き、中華民国が成立したことを理解している。 思考・判断・表現 日露戦争後の東アジアの状況について、日本による韓国併合と、中国で起こった辛亥革命の結果をふまえて考え、表現している。

第6節 近代の日本の社会と文化

第6節の目標			
○日本の産業革命、この時期の国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、日本で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことを理解する。 ○産業の発展が国民の生活や文化にあたえた影響に着目して、事象を相互に関連づけるなどして、日本で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことについて多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。 ○近代(前半)の日本の学習をふり返りながら自身の学びを確認、調整しようとするとともに、近代(前半)の時代の特色は何かを主体的に追究する態度を養う。 【単元を貫く問い】 産業の発展によって社会や文化はどのように変わったのだろうか。			
(★評定に用いる評価)	第6節の評価規準	知識・技能 ・日本の産業革命、この時期の国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、日本で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことを理解している。	
		思考・判断・表現 ・産業の発展が国民の生活や文化にあたえた影響に着目して、事象を相互に関連づけるなどして、日本で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことについて多面的・多角的に考察し、表現している。 ・近代(前半)の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。 主体的に学習に取り組む態度 ・近代(前半)の日本の学習をふり返りながら自身の学びを確認、調整しようとするとともに、近代(前半)の時代の特色は何かを主体的に追究しようとしている。	

累計時数	学習内容	学習のねらい	評価規準
79	1 日本の産業革命 (教科書 P. 210-211) ・工業化の進展 ・労働者と農民	○国家の強力なてこ入れのもと、日本は工業化や産業革命が実現したが、その過程で社会問題が発生したことを理解する。 ○日本の産業革命の進展とこの時期の国民生活の変化を結びつけて考え、表現する。	知識・技能 日本で産業革命が進展する一方、厳しい条件下での労働や公害、貧富の格差など、新しい社会問題が生まれたことを理解している。 思考・判断・表現 日本で産業革命が進展するにつれて、工業の発展や鉄道網の広がりなどによつ

			て人々の生活に変化がみられたことを考え、表現している。
80	2 社会運動の発展と近代文化の形成 (教科書 P. 212-215) ・ 社会を変える ・ 新時代の文学と芸術 ・ 教育の普及	○資本主義の発展は様々な影響をあたえ、労働運動や貧困と抑圧から解放を求める思想が登場したことを考え、表現する。 ○近代思想、文化、芸術が形成され、その背景には教育の普及があることを理解する。	思考・判断・表現 社会運動の登場や近代文化の発展を、日本の資本主義の発展と結びつけて考え、表現している。 知識・技能 欧米文化を日本の伝統と融合させながら日本の近代文化が形成されたことをとらえ、その背景に教育の普及があったことを理解している。
81	【チャレンジ歴史】 経済発展か、環境保全か、足尾鉍毒事件を通して考えよう (教科書 P. 216-217)	○足尾銅山鉍毒事件を例に、銅山の操業停止を求めた田中正造と経済発展優先の政府の対応について調べ、自分の意見をもち、発表する。	知識・技能 足尾銅山鉍毒事件の原因と結果について理解している。 思考・判断・表現 田中正造の考え方を理解し、なぜ銅山の操業停止を求めたのか、それに対して政府はどのような対応をしたのかを理解し、それに対する自分の意見を述べている。
82	【学習の活用と整理—とらえよう！「日本の近代化」の特色】(教科書 P. 218-219) 明治政府の「政策」に着目して、近代(前半)の特色にせまろう	○明治政府が進めた政策に着目し、近代(前半)の特色を多面的・多角的に考え、表現する。 ○「政策」に着目し、諸政策を分類・整理する活動を通して、これまでの学習をふり返りながら、近代(前半)の時代の特色について主体的に追究しようとする態度を養う。	思考・判断・表現 明治政府が進めた政策を分類、整理する活動を通して、明治政府が進めた政策に着目し、近代(前半)の特色を多面的・多角的に考え、表現している。 主体的に学習に取り組む態度 これまでの学習活動をふまえ、近代(前半)の特色を主体的に追究し、様々な立場や観点から見いだそうとしている。

第5編第2章の目標	
<p>○近代（後半）までの日本の大きな流れを、世界の歴史を背景に、時代の特色をふまえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身につける。</p> <p>○近代（後半）での日本に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、思考したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>○近代（後半）の日本に関わる諸事象について、そこでみられる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。</p> <p>【単元を貫く問い】（教科書P.221「めあて」） 1930年代なかばから40年代のなかばにかけて、どうしてこんなに生活のようすがちがうのでしょうか。この単元では、大正時代から日本と世界のようすを学びながら、そのなぞを解いていきましょう。そして、「近代（後半）」とはどのような時代か、政治・経済・文化・外交の面で、これまでの時代とのちがいは何かなど、自分の言葉で説明できることをめざしましょう。</p>	
<p>（★ 第5編第2章の 評価規準 に用いる）</p>	<p>知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> 近代（後半）までの日本の大きな流れを、世界の歴史を背景に、時代の特色をふまえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身につけている。 <p>思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> 経済の変化の政治への影響、戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと日本との関係などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、近代（後半）の社会の変化のようすを多面的・多角的に考察し、表現している。 近代（後半）の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。 <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料から時代の移り変わりを読み取る活動を通して、近代（後半）の日本と世界について見通しをもって学習に取り組もうとしている。 近代（後半）の日本の学習をふり返りながら自身の学びを確認、調整しようとするとともに、近代（後半）の時代の特色は何かを主体的に追究しようとしている。

第1節 第一次世界大戦と戦後の世界

第1節の目標
<p>○第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりなどを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、第一次世界大戦前後の国際情勢について理解する。</p> <p>○経済の変化の政治への影響、世界の動きと日本との関係などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、第一次世界大戦前後の国際情勢や大戦後に国際平和への努力がなされたことについて多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。</p> <p>○資料から時代の移り変わりを読み取る活動を通して、近代（後半）の日本と世界について見通しをもって学習に取り組む態度を養う。</p> <p>【単元を貫く問い】 第一次世界大戦前後の国際情勢に対して日本はどのように動いたのだろうか。</p>

(★評定に用いる評価)	第1節の評価規準
	知識・技能 ・第一次世界大戦の背景とその影響，民族運動の高まりなどを基に，諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ，第一次世界大戦前後の国際情勢や大戦後に国際平和への努力がなされたことについて理解している。
	思考・判断・表現 ・経済の変化の政治への影響，世界の動きと日本との関係などに着目して，事象を相互に関連づけるなどして，第一次世界大戦前後の国際情勢や大戦後に国際平和への努力がなされたことについて多面的・多角的に考察し，表現している。
	主体的に学習に取り組む態度 ・資料から時代の移り変わりを読み取る活動を通して，近代（後半）の日本と世界について見通しをもって学習に取り組もうとしている。

累計 時数	学習内容	学習のねらい	評価規準
83	【導入】 (教科書 P. 220-223) ・「近代（後半）の日本と世界」の特色を探っている ・地図で見る世界の動き—第一次世界大戦の国際関係	○生活の変化を示す写真の読み取りを通して，当時の日本のようすをイメージし，二度の世界大戦とその影響について主体的に考える態度を養う。 ○大正から昭和にかけての日本と世界の流れや，世界の国々の対立や動きについて理解する。	主体的に学習に取り組む態度 近代（後半）の日本と世界について，見通しをもって学習に取り組もうとし，課題を主体的に追究しようとしている。 知識・技能 地図と年表から当時の世界情勢についてまとめ，世界の国々の対立関係や二度の大戦に発展した日本や世界の動きを理解している。
84	1 第一次世界大戦 (教科書 P. 224-225) ・初めての世界大戦 ・長引く戦争と総力戦 ・ロシア革命	○第一次世界大戦が起きた背景や原因，ヨーロッパに与えた影響を理解する。 ○第一次世界大戦の特徴を，ロシア革命の動きと関連づけて考え，表現する。	知識・理解 当時のヨーロッパ情勢についてまとめ，第一次世界大戦が起きた背景や原因，戦争が与えた影響について理解している。 思考・判断・表現 第一次世界大戦が総力戦になったことと，その後のロシア革命の動きとを関連づけて考え，表現している。
85	2 日本の参戦と大戦景気 (教科書 P. 226-227) ・日本の参戦と二十一か条の要求 ・日本経済の飛躍 ・シベリア出兵と米騒動	○第一次世界大戦に参戦した日本で経済が好景気をむかえたり，米騒動が起こったりしたことを理解する。 ○二十一か条の要求やシベリア出兵の意図をとらえて，第一次世界大戦が日本に与えた影響を考え，表現する。	知識・技能 第一次世界大戦の参戦により日本経済が好景気になったことや，シベリア出兵により米騒動が起こったことを理解している。 思考・判断・表現 二十一か条の要求やシベリア出兵などのアジアへの勢力拡大をねらった動きが日本の対外政策にどのような影響を与えたのか考え，表現している。
86	3 大戦後の世界とアジアの民族運動 (教科書 P. 228-229) ・ベルサイユ条約と国際連盟 ・アジアの民族運動 ・ワシントン会議と日本	○第一次世界大戦後に，国際平和や軍縮のための努力がなされたことを理解する。 ○アジアの民族運動や独立運動の流れを，第一次世界大戦と関連づけて考え，表現する。	知識・技能 ベルサイユ条約の内容や国際連盟についてまとめ，国際平和や軍縮のための努力がなされたことを理解している。 思考・判断・表現 インドや中国，朝鮮の民族運動を第一次世界大戦後の民族自決の動きと関連づけて考え，表現している。

第3節 世界恐慌と日本

第3節の目標	
<p>○経済の世界的な混乱と社会問題の発生，昭和初期から第二次世界大戦の開戦までの日本の政治・外交の動き，中国などアジア諸国との関係などを基に，諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ，軍部の台頭から戦争までの経過について理解する。</p> <p>○経済の変化の政治への影響，世界の動きと日本との関連などに着目して，事象を相互に関連づけるなどして，軍部の台頭から戦争までの経過について多面的・多角的に考察し，表現する力を養う。</p> <p>【単元を貫く問い】 なぜ日本は長い戦争の時代をむかえることになったのだろうか。</p>	
<p>(★第3節の評価規準に用いる評価)</p>	<p>知識・技能 ・経済の世界的な混乱と社会問題の発生，昭和初期から第二次世界大戦の開戦までの日本の政治・外交の動き，中国などアジア諸国との関係などを基に，諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ，軍部の台頭から戦争までの経過について理解している。</p>
	<p>思考・判断・表現 ・経済の変化の政治への影響，戦争に向かう時期の社会や生活の変化，世界の動きと日本との関連などに着目して，事象を相互に関連づけるなどして，軍部の台頭から戦争までの経過について多面的・多角的に考察し，表現している。</p>

累計時数	学習内容	学習のねらい	評価規準
90	<p>1 世界恐慌と各国の対応 (教科書 P. 238-239)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界恐慌の衝撃 ・ファシズムの台頭 ・ニューディール政策とブロック経済政策 	<p>○世界恐慌が起きた時のソ連とその他の国との経済のしくみのちがいを理解する。</p> <p>○資源・植民地をもてる国と，もたざる国とのちがいをとらえ，世界恐慌が欧米諸国にあたえた影響を考え，表現する。</p>	<p>知識・技能 社会主義と資本主義の経済のしくみのちがいをふまえ，世界恐慌による各国の社会の変化を理解している。</p> <p>思考・判断・表現 資源・植民地をもてる国と，もたざる国とのちがいに着目して，世界恐慌が欧米諸国にあたえた影響を考え，表現している。</p>
91	<p>2 日本の恐慌と東アジア情勢 (教科書 P. 240-241)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の恐慌 ・統一を進める中国と日本の対応 ・政党政治の危機 	<p>○欧米でも起こったことを参考に，日本の都市や農村で起こったことをとらえ，世界恐慌が日本にあたえた影響を考え，表現する。</p> <p>○日本への世界恐慌の影響に関する欧米諸国との共通点，相違点を理解する。</p>	<p>思考・判断・表現 欧米でも起こったことを参考に，日本の都市や農村で起こったことに着目し，経済が落ち込んだ日本では，社会運動が多発したことについて考え，表現している。</p> <p>知識・技能 世界恐慌の影響を受けて経済の混乱が起こる中，日本の政党政治がゆきづまりをみせたことを理解している。</p>
92	<p>3 日本の進路を変えた満州事変 (教科書 P. 242-243)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・満州事変 ・満州国の建国と日本の国際的孤立 ・強まる軍部の力 	<p>○満州事変後に軍部の発言力が強まり，国内政治は政党政治・軍縮路線から軍拡路線へと進路を変えたことを理解する。</p> <p>○日本国内の社会や政治の移り変わりをとらえ，満州への侵略が行われた理由と，満州事</p>	<p>知識・技能 満州事変後に軍部の発言力が強まり，国内政治は政党政治・軍縮路線から，軍拡路線へと進路を変えたことを理解している。</p> <p>思考・判断・表現 日本国内の社会や政治の移り変わりに着目して，満州への侵略が行われた理由</p>

		変後の日本の政治の変化を考え、表現する。	と、満州事変後の日本の政治の変化を考え、表現している。
93	4 日中全面戦争と戦時体制 (教科書P.244-245) ・中国との全面戦争 ・強まる戦時体制	○日本軍、中国の国民政府や民衆、他国の動きをとらえ、日本と中国の軍事的衝突が長期化した理由を考え、表現する。 ○日中戦争により、植民地では皇民化政策が推進され、国内では軍国主義の体制が推進されたことを理解する。	思考・判断・表現 日本軍、中国の国民政府や民衆、他国の動きに着目して、日本と中国の軍事的衝突が長期化した理由を考え、表現している。 知識・技能 日中戦争により、植民地では皇民化政策が推進され、国内では国家総動員法などに基いて軍国主義の体制が推進されたことを理解している。

第4節 第二次世界大戦と日本

第4節の目標	
<p>○第二次世界大戦の始まりから終結までの日本の政治・外交の動き、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解する。</p> <p>○第二次世界大戦期の世界と日本の動きなどに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、第二次世界大戦終結までのようすについて多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。</p> <p>○近代(後半)の日本の学習をふり返りながら自身の学びを確認、調整しようとするとともに、近代(後半)の時代の特色は何かを主体的に追究する態度を養う。</p> <p>【単元を貫く問い】 第二次世界大戦が世界にもたらしたものは何だろうか。</p>	
(★) 第4節の評価規準に用いる評価	<p>知識・技能 ・第二次世界大戦の始まりから終結までの日本の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたこと、そのため国際協調と国際平和の実現に努めることが大切であることを理解している。</p> <p>思考・判断・表現 ・第二次世界大戦時の世界の動きと日本との関連に着目して、事象を相互に関連づけるなどして、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたこと、そのため国際協調と国際平和の実現に努めることが大切であることについて多面的・多角的に考察し、表現している。 ・近代(後半)の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 ・近代(後半)の日本の学習をふり返りながら自身の学びを確認、調整しようとするとともに、近代(後半)の時代の特色は何かを主体的に追究しようとしている。</p>

累計時数	学習内容	学習のねらい	評価規準
94	1 第二次世界大戦の始まり (教科書P.246-247) ・再び起きた世界大戦 ・ドイツの占領政策 ・枢軸国と連合国	○第二次世界大戦の始まりと経過を理解する。 ○枢軸国、連合国の方針のちがいに着目して、日本が枢軸国側に参加した理由について考え、表現する。	知識・技能 当時の国際社会の対立をファシズム・反ファシズムの立場からとらえ、第二次世界大戦の始まりと経過を理解している。 思考・判断・表現 なぜ日本が枢軸国側に参加したのかを、連合国・枢軸国それぞれの立場をふまえて考え、表現している。

95	2 アジア・太平洋での戦争 (教科書 P. 248-249) ・日本の南進 ・日米交渉の経緯 ・太平洋戦争の始まり	○当時の日本の状況をふまえて、日本が東南アジア諸国へ侵攻した理由を理解する。 ○日本政府や日本軍それぞれの動きに着目して、アメリカとの戦争に至った経緯や理由を考え、表現する。	知識・技能 当時の日本資源の分布などを読み取り、日本が東南アジア諸国へ侵攻した経緯や理由を理解している。 思考・判断・表現 日本政府の交渉と日本軍の侵攻の動きに着目して、なぜアメリカとの戦争を始めたのかを考え、表現している。
96	3 戦時下の国民の生活 (教科書 P. 250-251) ・苦しくなった国民生活 ・本土空襲 ・戦場となった沖縄	○日本の戦局の悪化に伴い、国民がどのように戦争に組み込まれたかを理解する。 ○様々な資料から、戦争が国内だけでなく、占領地や植民地の人々の生活にも大きな影響を及ぼしたことを考え、表現する。	知識・技能 日本の戦局の悪化に伴い、物資の不足と兵力・労働力不足を補うために国民が動員されたことを理解している。 思考・判断・表現 戦時下の生活の実態や変化を国内や占領地、植民地などに着目して多面的・多角的に考え、表現している。
97	4 第二次世界大戦の終結 (教科書 P. 252-253) ・イタリアとドイツの降伏 ・ヒロシマとナガサキ ・日本の降伏	○資料から第二次世界大戦末終結までの過程を読み取り、日本の降伏までの流れを理解する。 ○人類全体へ大きな惨禍をもたらした戦争という過ちを二度と起こさないためにどのようなことが大切かを考え、表現する。	知識・技能 各種資料を読み取り、関連づけながらまとめ、イタリア・ドイツの降伏からポツダム宣言受諾までの終結の過程を理解している。 思考・判断・表現 第二次世界大戦が人類に及ぼした惨禍を学び、同じ過ちを防ぐためにどのようなことが大切か、今後の国際協調について考え、表現している。
98	【チャレンジ歴史】 戦時体制の言論統制とその影響を考えよう (教科書 P. 254-255)	○諸資料から具体的な損害や言論統制との関連を読み取る。 ○大本営発表と実際の被害との比較や、戦争体験者の言葉などから、言論統制の危うさに着目して考え、表現する。	知識・技能 新聞記事や年表から具体的な被害や言論統制との関連を読み取っている。 思考・判断・表現 戦時において言論統制をされると、正しい情報が得られないようになり、正しい判断ができなくなることをふまえて、その影響について考え、表現している。
-	【でかけよう！地域調べ】 大阪の空襲を調べる (教科書 P. 256-257)	○戦争遺跡や博物館、インターネットなどを効果的に活用し、戦争の被害や人々にあたえた影響について読み取る。 ○地域の戦争遺跡を調べることを通して、身近な地域の歴史的特徴を多面的・多角的にとらえて国際平和の意義を考え、表現する。	知識・技能 戦争遺跡や博物館、インターネットなどを活用し、戦争の被害や人々にあたえた影響について読み取っている。 思考・判断・表現 空襲の体験談や遺跡・博物館の資料などから、身近な地域の歴史的特徴を多面的・多角的にとらえ、戦争の悲惨さを理解したうえで、国際平和の意義について考え、表現している。
99	【学習の整理と活用—とらえよう！「二度の世界大戦と日本」の特色】 (教科書 P. 258-259) 「戦争」に着目して、近代(後	○日本で戦争が続いた理由に着目し、近代(後半)の特色を多面的・多角的に考え、表現する。 ○「戦争」に着目し、戦争の背	思考・判断・表現 満州事変から敗戦までの戦争について整理する活動を通じて、日本で戦争が続いた理由に着目し、近代(後半)の特色を多面的・多角的に考え、表現している。

	半)の特色にせまろう	景と影響を考察する活動を通して、これまでの学習をふり返りながら、近代(後半)の特色について主体的に追究しようとする態度を養う。	主体的に学習に取り組む態度 これまでの学習活動をふまえ、近代(後半)の特色を主体的に追究し、様々な立場や観点から見いだそうとしている。
--	------------	---	---

第6編 現代の日本と世界

学習指導要領の内容：C(2)

第6編の目標	
	<p>○現代の日本の大きな流れを、世界の歴史を背景に、時代の特色をふまえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身につける。</p> <p>○現代の日本に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、思考したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>○現代の日本に関わる諸事象について、そこでみられる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。</p> <p>【単元を貫く問い】(教科書P.261「めあて」)</p> <p>日本は、なぜ戦争が終わって20年弱でオリンピックを開くことができたのでしょうか。その理由を日本国内の改革や諸外国との関係に着目しながら学んでいきましょう。</p> <p>そして、「現代」とはどのような時代か、政治・社会・文化・外交の面で、これまでの時代とのちがいは何かなど、自分の言葉で説明できることをめざしましょう。</p>
<p>(★評定に用いる評価)</p> <p>第6編の評価規準</p>	<p>知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> 現代の日本の大きな流れを、世界の歴史を背景に、時代の特色をふまえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身につけている。 <p>思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> 敗戦前後の社会の変化や冷戦体制下の日本と世界との関わりに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことについて多面的・多角的に考察し、表現している。 現代の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。 <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料から戦争中や敗戦直後、現在のようすを比較することを通して、現代の日本について見通しをもって学習に取り組もうとしている。 現代の日本の学習をふり返りながら自身の学びを確認、調整しようとするとともに、現代の時代の特色は何かを主体的に追究しようとしている。

第1節 平和と民主化

第1節の目標	
	<p>○冷戦、日本の民主化と再建の過程、国際社会への復帰などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解する。</p> <p>○敗戦前の社会とのちがいや敗戦による社会への様々な影響などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことについて多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。</p> <p>○資料から戦争中や敗戦直後、現在のようすを比較することを通して、現代の日本について見通しをもって学習に取り組む態度を養う。</p> <p>【単元を貫く問い】</p> <p>敗戦によって日本の社会はどのように変化し、どのように国際社会へ復帰したのだろうか。</p>

(★評定に用いる評価) 第1節の評価規準	知識・技能
	・冷戦、日本の民主化と再建の過程、国際社会への復帰などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解している。
	思考・判断・表現
	・敗戦前の社会とのちがいや敗戦による社会への様々な影響などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことについて多面的・多角的に考察し、表現している。
	主体的に学習に取り組む態度
	・資料から戦争中や敗戦直後、現在のようすを比較することを通して、現代の日本について見通しをもって学習に取り組もうとしている。

累計 時数	学習内容	学習のねらい	評価規準
100	【導入】(教科書 P. 260-263) ・「現代の日本と世界」の特色を探っていこう ・地図で見る世界の動き—第二次世界大戦後の世界と日本	○戦争中や敗戦直後と現在のようすの読み取りを通して、敗戦から現在に至るまでの日本や世界の歩みについて主体的に考える態度を養う。 ○資料の読み取りなどを通して、第二次世界大戦後から現在にかけての日本を取り巻く国際環境の変化や、日本と世界の動きについて理解する。	主体的に学習に取り組む態度 現代の日本と世界について、見通しをもって学習に取り組もうとし、課題を主体的に追究しようとしている。 知識・技能 地図や年表から第二次世界大戦終結よる国際環境の変化や現在に至るまでの日本と世界の動きについて理解している。
101	1 占領と改革の始まり (教科書 P. 264-265) ・占領政策の開始 ・縮小した領土とアジアの解放 ・海外にいた人々の苦難	○GHQによる占領政策の目的が日本の「非軍事化」と「民主化」であることを理解する。 ○アジアの解放について、日本の領土や占領地の変化に着目して多面的・多角的に考え、表現する。	知識・技能 五大改革などから、GHQによる占領政策の目的が、日本の「非軍事化」と「民主化」であることを理解している。 思考・判断・表現 戦後にアジアの国々で起きた変化について、日本の領土や占領地の変化に着目して考え、表現している。
102	2 平和で民主的な国家をめざして (教科書 P. 266-267) ・日本国憲法の成立 ・民主化の進展	○日本国憲法を大日本帝国憲法と比較しながら読み取り、日本国憲法の特色を理解する。 ○日本国憲法と戦後の改革から、日本がどのような国づくりをめざしていたかについて考え、表現する。	知識・技能 日本国憲法と大日本帝国憲法の比較から、三つの基本原則を明確にした日本国憲法の特色を理解している。 思考・判断・表現 日本国憲法や戦後改革によってめざされた国づくりについて、敗戦前の社会とのちがいに着目して考え、表現している。
103	3 敗戦直後の社会と文化 (教科書 P. 268-269) ・苦しい生活 ・生活や権利を守る動き ・解放感と希望	○当時の生活を戦争と関連づけながら、復興に向けた動きを理解する。 ○敗戦から復興へと向かう中での人々の行動や文化の変化に着目してその特徴を考え、表現する。	知識・技能 日中戦争から太平洋戦争まで続いた戦争が国民生活と日本経済にあたえた影響と、復興に向けた努力を理解している。 思考・判断・表現 敗戦後の苦難から復興にかけての人々の行動や文化がどのように変化したのかに着目してその特徴を考え、表現している。

104	4 第二次世界大戦後の世界 (教科書P.270-271) ・国際連合の成立と脱植民地化 ・冷戦の始まり ・冷戦と東アジア	○国際連合が成立する一方で、アメリカとソ連が対立し、冷戦が始まったことを理解する。 ○冷戦が世界に与えた影響について、資本主義陣営と社会主義陣営が対立を深めていく過程に着目して多面的・多角的に考え、表現する。	知識・技能 国際平和を掲げて国際連合が成立する一方で、東西冷戦が始まったことを理解している。 思考・判断・表現 冷戦が世界に与えた影響について、東西ドイツの成立や朝鮮戦争が起こった過程に着目して多面的・多角的に考え、その結果を表現している。
105	5 国際社会への復帰と55年体制 (教科書P.272-273) ・占領政策の転換 ・講和と安保 ・55年体制と安保闘争	○アメリカによる日本の占領政策の転換を、冷戦と関連づけて理解する。 ○日本の国際社会への復帰について、冷戦と結びつけて多面的・多角的に考え、表現する。	知識・技能 占領政策の転換について、冷戦が東アジアの情勢に与えた影響と関連づけて理解している。 思考・判断・表現 日本の国際社会への復帰について、深刻化した冷戦と結びつけて多面的・多角的に考え、表現している。

第2節 冷戦下の世界と経済大国化する日本

第2節の目標	
<p>○冷静体制下での高度経済成長などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、日本の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上したことを理解する。</p> <p>○高度経済成長期前後の生活のちがいや日本と諸外国との関係などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、日本の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上したことについて多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。</p> <p>【単元を貫く問い】 冷戦体制下でなぜ日本は経済大国化したのだろうか。</p>	
(★ 第2節の 評価規 準に 用いる 評価)	<p>知識・技能 ・冷静体制下での高度経済成長などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、日本の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上したことを理解している。</p> <p>思考・判断・表現 ・高度経済成長期前後の生活のちがいや日本と諸外国との関係などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、日本の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上したことについて多面的・多角的に考察し、表現している。</p>

累計 時数	学習内容	学習のねらい	評価規準
106	1 東西対立と緊張緩和 (教科書P.274-275) ・核兵器開発と冷戦下の緊張 ・アジア・アフリカの動き ・緊張緩和と多極化	○資料の読み取りなどを通して、核実験による緊張の高まりと緩和への動きの高まりについて理解する。 ○冷戦による東西対立から緊張緩和と多極化へ向かった理由について考え、表現する。	知識・技能 冷戦下の緊張が高まる中で、核実験の被害や核戦争の危機が起きたが、緊張緩和への動きも高まったことを理解している。 思考・判断・表現 冷戦の緊張状態から緩和と多極化へ向かった理由について、米ソ二大国と、他の国との関係に着目して考え、表現している。

107	<p>2 冷戦下のアジアと日本 (教科書P.276-277)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベトナム戦争 ・復帰運動の高まりと沖縄返還 ・韓国・中国との国交正常化 	<p>○沖縄返還について、冷戦が日本に与えた影響をふまえて理解する。</p> <p>○日本とアジア諸国との関係の変化について、アメリカの影響をふまえて考え、表現する。</p>	<p>知識・技能 沖縄では、冷戦下でのアメリカの動きを背景に復帰運動が高まり、日本への返還が実現したことを理解している。</p> <p>思考・判断・表現 冷戦下で日本が韓国・中国との国交正常化を実現した背景を、アメリカとの関係に着目して考え、表現している。</p>
108	<p>3 高度経済成長 (教科書P.278-279)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済の高度成長 ・国民生活の変化 ・高度成長のひずみ 	<p>○高度経済成長期による人々の暮らしの変化について多面的・多角的に考え、表現する。</p> <p>○高度経済成長によって国民生活が向上した一方で、様々な社会問題が発生したことを理解する。</p>	<p>思考・判断・表現 人々の暮らしの変化について、高度経済成長期の前後のちがいに着目して考え、表現している。</p> <p>知識・技能 高度経済成長によって国民生活が向上した一方で、公害問題をはじめとする様々な社会問題が発生したことを理解している。</p>
-	<p>【歴史を掘り下げる】 オリンピック・パラリンピックの歴史 (教科書P.280-281)</p>	<p>○オリンピック・パラリンピックの開催が、世界中に様々な影響をあたえていることを理解する。</p> <p>○オリンピック・パラリンピックの歴史的意義について、話し合いなどの活動を通じて主体的に考える態度を養う。</p>	<p>知識・技能 オリンピック・パラリンピックの開催が、世界中に様々な影響をあたえていることを理解している。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 オリンピック・パラリンピックにはどのような歴史的意義があるのか主体的に考え、追究しようとしている。</p>
109	<p>4 経済大国となった日本 (教科書P.282-285)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済大国・日本 ・アジアのなかの日本 ・メディアの発達と大衆文化 	<p>○経済発展した日本が世界に与えた影響について、諸外国との関係に着目して考え、表現する。</p> <p>○高度経済成長期以降の人々の暮らしにマスメディアが大きな影響をあたえたことを理解する。</p>	<p>思考・判断・表現 経済発展した日本が世界に与えた影響について、諸外国との経済や文化の関係に着目して考え、表現している。</p> <p>知識・技能 高度経済成長期以降の人々の暮らしについて、マスメディアが国民の意識や生活様式に大きな影響をあたえたことを理解している。</p>

	題 ・歴史から未来へ	関連づけてとらえ、その解決について考え、表現する。	思考・判断・表現 国際社会における課題や日本国内の課題を身近な問題と関連づけてとらえ、解決に向けてどのようなことができるか考え、表現している。
-	【歴史を掘り下げる】 冷戦終結後の近隣諸国との関係（教科書P.292-293）	○領土問題について、歴史的な経緯や原因に着目し、解決に向けて求められることについて考え、表現する。 ○日本が抱える近隣諸国との問題について、これまでの歴史や外交と関連づけて理解する。	思考・判断・表現 領土問題について、歴史的な経緯や原因に着目し、解決に向けてどのようなことが求められるか考え、表現している。 知識・技能 日本が抱える領土問題や賠償問題について、これまでの歴史や外交と関連づけて理解している。
-	【でかけよう！地域調べ】 公害克服の歴史を調べる（教科書P.294-295）	○公害克服の歴史やそれを生かした取り組みについて、資料を活用しながらまとめる。 ○北九州市の公害克服の歩みを土台にした環境問題への取り組みについて、多面的・多角的に考え、表現する。	知識・技能 公害克服の歴史やそれを生かした国際的な取り組みについて、資料を活用しながらまとめている。 思考・判断・表現 北九州市の公害克服の歩みを土台にした環境問題への取り組みの良さについて、考え、表現している。
113	【学習の整理と活用—とらえよう！「現代の日本と世界」の特色】 （教科書P.296-297） 「復興と成長の源」に着目して、現代の特色にせまろう	○現代の日本が直面した問題とその克服のようすを考察し、現代の特色について考え、表現する。 ○「復興と成長の源」に着目し、現在までに克服したことや、未解決の課題をまとめる活動を通して、これまでの学習をふり振り返りながら、現代の時代の特色について主体的に追究しようとする態度を養う。	思考・判断・表現 戦後復興と経済成長の中で、日本が直面した問題とその克服のようすを多面的・多角的に考察し、現代の特色について考え、表現している。 主体的に学習に取り組む態度 これまでの学習活動をふまえ、現代の特色を主体的に追究し、様々な立場や観点から見いだそうとしている。

「歴史との対話」を未来に活かす

学習指導要領の内容：C（2）

「『歴史との対話』を未来に活かす」の目標	
<p>○これまでの学習をふまえ、歴史と私たちとのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について、課題意識をもって多面的・多角的に考察、構想し、表現する力を養う。</p> <p>○現代の諸課題に関する歴史をふり返る活動を通じて、現代の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決する力を養う。</p> <p>【単元を貫く問い】 よりよい社会の実現のために、先人の取り組みから何を学び、私たちはどのように行動すべきだろうか。</p>	
<p>規 準 （ ★ 評 定 に 用 い る 評 価 規 準 ）</p>	<p>思考・判断・表現 ・これまでの学習をふまえ、歴史と私たちとのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について、課題意識をもって多面的・多角的に考察、構想し、表現している。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 ・現代の諸課題に関する歴史をふり返る活動を通じて、現代の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしているとともに、公民的分野へのつながりを見いだそうとしている。</p>

累計 時数	学習内容	学習のねらい	評価規準
114 115	課題例1 災害の歴史に学ぶ (教科書 P. 300-301)	<p>○災害や防災の歴史をふまえ、災害に対して自分たちがどのような行動をとるべきかを、多面的・多角的に考え、構想し、表現する。</p> <p>○災害に対する先人の取り組みをふり返る活動を通じて、防災のための課題を主体的に追究、解決する力を養う。</p>	<p>思考・判断・表現 災害に対する先人の取り組みから、自分たちがどのような行動をとるべきか、課題意識をもって、多面的・多角的に考え、構想し、表現している。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 この学習を通じて、防災のための課題について、主体的に追究、解決しようとしているとともに、公民的分野へのつながりを見いだそうとしている。</p>
	課題例2 政治参加の歴史に学ぶ (教科書 P. 302-303)	<p>○政治参加の歴史をふまえ、将来国政に参加する公民として、現代の政治参加の課題を多面的・多角的に考え、構想し、表現する。</p> <p>○政治参加の歴史をふり返る活動を通じて、そこにみられる課題をふまえ、自分たちがどのように考え、行動すべきかを、主体的に追究、解決する力を養う。</p>	<p>思考・判断・表現 政治参加の歴史をふまえ、現在の政治参加の課題について、課題意識をもって、多角的・多面的に考え、構想し、表現している。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 この学習を通じて、現代の政治参加の課題について考え、どう行動すべきかを、主体的に追究、解決しようとしているとともに、公民的分野へのつながりを見いだそうとしている。</p>
	課題例3 世界平和への取り組みに学ぶ (教科書 P. 304-305)	<p>○過去の戦争や、平和への取り組みをふまえ、平和を実現する方策について、多面的・多角的に考え、構想し、表現する</p> <p>○過去の戦争や平和への取り組みをふり返る学習を通じて、世界平和を実現する方策について主体的に追究、解決する力を養う。</p>	<p>思考・判断・表現 過去の戦争や、平和への取り組みについての学習を基に、世界平和を実現するための取り組みについて、課題意識をもって多面的・多角的に考え、構想し、表現している。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 この学習を通じて、世界平和を実現する方策を、主体的に追究しようとしているとともに、公民的分野へのつながりを見いだそうとしている。</p>